施設ヲ爲スコトヲ得シメ教育及保育ノ實習上支障ナカラシメンカ爲ナリ又附屬小學校ニ於テハ規程ニ示セル學級ノ外成ルヘク盲人、啞人又ハ心身ノ發育不完全ナル兒童ヲ教育セシカ爲特別學級ヲ設ケ之カ教育ノ方法ヲ攻究センコトヲ希望スト雖此ノ如キ施設ハ從來未タ多ク見サリシ所ナリト雖教育ノ進歩ト文化ノ發展トニ伴ヒ將來ニ於テハ其ノ必要アルヲ認ムルヲ以テナリ

要スルニ今回改正ノ要旨ハ小學教育ノ發達ニ伴ヒ其ノ源泉タル師範教育ノ内容ヲ改善シ一層優良ナル小學校長及教員ヲ得兼テ其ノ不足ヲ補充スルニ足ルヘキ人員ヲ養成セシメムトスルニ外ナラス而シテ諸般ノ施設ニ關シ教育上障害ナキ範圍内ニ於テ節約利用ノ方法ヲ講シ以テ多數ノ生徒ヲ養成センコト最希望ニ堪ヘサルナリ卽チ土地ノ情況ニ應シ私費生及女生徒ノ員數ヲ適度ニ增加スルコト教育ニ妨ナキ限ニ於テ校舍ノ利用度數ヲ增加シ教員勤務ノ繁閑ヲ考ヘ便宜晝夜二部ノ教授ヲ奬勵スルコト又ハ生徒收容上ノ必要ニヨリテハ一部ノ生徒ヲ外宿セシムル途ヲ講スル等ノ如キモ此ノ目的ヲ達スルニ於テ便宜ノ方法タラスンハアラス而シテ制度ノ改善ハ未タ必スシモ直ニ教育ノ改善ヲ意味セス地方長官ハ宜シク學校職員ヲ督勵シ以テ本規程改正ノ旨趣ヲ貫徹セシメムコトヲ期スヘシ

明治四十年四月十七日

文部大臣牧野伸顯

○文部省訓令第七號

明治二十年文部省訓令第四號、明治二十二年文部省訓令第四號、明治二十五年文部省訓令第六號ハ明治四十一年三月三十一日限リ之ヲ廢止ス

明治四十年四月十八日

文部大臣牧野伸顯

〔參照〕

明治二十年十二月二十五日文部省訓令第四號ハ師範學校教科用圖書ハ該學校教員ノ會議ニ付シ文部大臣ノ裁定ヲ經シムル件、同二十二年十月二十日同第四號ハ師範學校生徒ニ退學ヲ命スルトキハ學資ヲ償還セシムル件、同二十四年十一月同第七號ハ師範學校ニテ支給スヘキ生徒ノ學資種目及支給方ノ件、同二十五年七月十日同第六號ハ北海道廳府縣ニ於テ師範學校ノ教授管理等ニ關スル諸規程ヲ制定改廢スルトキハ文部大臣ニ開申セシムルノ件ナリ

大臣官房會計課　直轄諸學校　帝國圖書館

○文部省訓令第八號

明治四十年度學校及圖書館歲入歲出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十年四月十九日

文部大臣牧野伸顯

一歲入臨時部ノ部末位ニ前年度繰入金ノ款用途指定寄付支出費金ノ項學校費寄付ノ目ヲ加フ

大臣官房會計課　直轄諸學校　帝國圖書館

○文部省訓令第九號

明治四十年度學校及圖書館歲入歲出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十年四月二十六日

文部大臣牧野伸顯

一資金部歲入ノ部維持資金收入ノ款中未位ニ期滿後收入ノ項期滿後收入ノ目ヲ加フ

山林局　大林區署　沖繩縣

○農商務省訓令第四號

明治四十年度歲入歲出及森林資金歲入歲出科目左表ノ通心得ヘシ

明治四十年四月一日

農商務大臣松岡康毅

科目表

歲入經常部

款	項	目	解說
官業及官有財產收入			

森林收入			
	主產物拂下代		木竹及末木、根株、枝條(幼樹共)
	副產物拂下代		土石、柴草、菌蕈其ノ他各種ノ產物
	地所貸下料		使用料及部分林ノ地代共
	地所拂下代		
	沖繩縣杣山拂下代		
	建物拂下代		
	製材拂下代		林野產物ノ製品(屑木共)
	牛馬放牧料		
	砂鑛採取料		
	林野臺帳謄本料		部分林臺帳、林野地籍臺帳及圖面ノ謄本竝抄本料
	辨償金		誤伐、擅伐、浸用、毀損、紛失品及損害ノ辨償金、盜難品賠償金、訴訟入費償却金ノ類
	違約金		
	年賦及延納金		未納金ノ年賦月賦及延納
雜收入			
	雜入		
		返納金	誤拂及過渡金ノ返納
	官吏遺族扶助法納金		

	官吏遺族扶助法納金		

歲入臨時部

官有物拂下代			
	物品拂下代		
		物品拂下代	不用物品(雲尿共)
森林資金繰入			
	森林資金繰入		
		森林資金繰入	

歲出經常部

款	項	目	節	解	疏
森林費					
	俸給及諸給				
		奏任俸給			
			事務官		
			林務官		
			技師		
		判任俸給			

		屬	
		技手	
		森林主事	
	退官賜金		
	死亡賜金		
	休職俸給		
廳費			
	備品費		(附屬品及修繕共)
		器具	卓子、椅子、箱類、點燈用具、室內用品、印章、版木、度量衡、火具、厨具、製本用具、雜具ノ類
		雜機械	測量、寫字、印刷及製圖器、輪尺ノ類
		雜品	綠、標札、風呂敷、靴拭、砥石、掃除用具、金物其ノ他ノ雜品
	圖書及印刷費		
		圖書購買費	官報、新聞紙、書籍、地圖ノ類
		製本費	圖書製本類ノ製釘但シ職工賃ヲ除ク
		印刷費	諸規則、報告書類ノ刷製セシモノ及諸印刷代
	筆紙墨文具		
		用紙	各種用紙、狀袋ノ類(漉立シ代共)

		諸帳簿	帳簿及森林手簿等ノ調製トナリシモノ
		筆墨印肉類	筆、墨、インキ、繪ノ具、印肉ノ類
		硯小道具類	硯、硯箱、文鎭、算盤、肉池、繪ノ具皿ノ類(修繕共)
	消耗品		
		薪炭油類	薪、炭、各種油、ペンキノ類
		雜用品	蠟燭、生麩、付木、燈心、藥品、寒天、飲料水ノ類
	通信運搬費		
		郵便電信料	郵便爲替料、電信持込賃共
		電話機使用料	電鈴、加入登記料、機械移轉料共
		運搬費	運送賃、荷造賃、荷造用品及保險料共 但シ人夫賃ヲ除ク
		使賃	郵便不便ノ地ニ於ケル公用狀及緊急召喚狀等ノ使賃 但シ人夫賃ヲ除ク
	署用品代料		小林區署用品代料
	廳舍及敷地借料		官舍、倉庫、席料ノ類共
修繕費			
	各所修繕		廳舍、官舍及附屬物件並製材所建物ノ修繕一箇所五百圓未滿ノ分
死傷手當			
	死傷手當		
賠償及訴訟費			

			賠償金		
			訴訟費		弁護士ノ報酬、訴訟代理人、証人、鑑定人等ノ旅費、日当、宿泊料、訴訟費用ノ仮払ヲ為ス場合ニ於ケル仮払金ノ精算ニ必要ナル書類
		旅費			
			内国旅費		赴任及出張巡回旅費
			外国旅費		
	賃金及雑給				
			給与		雇託手当、雇傭手当及恩給金
			官吏練習費		
			職員給		
			傭人料		給仕、小使、衛兵等ノ給料及雇工人夫賃
			被服費		小使被服給付費
			器具費		塔表石標木標、副札、土砂ノ標識費(定員共)
			修繕費		地代、家賃、建物修繕費、建物保険料、火災保険料、建物ニ関スル諸税、人夫賃、食料、燃料、飼料、敷料、仮設物材料、雑品、雑物ノ購入費、運搬費等ノ費用ニシテ左ノ諸費ニ属セサルモノ
			雑費		
			筆写料		筆耕料 但シ外ニ支給スルモノニ限ル
			広告料		

				諸費	
				役務諸費	小林区署部内巡回諸費其ノ他
				役務給水費	木材給水料、運搬水船賃、雇傭料
				翻訳料	
				謝金	
				諸手数料	
		事業費			
			所伐作業費		伐木、造材、運材、貯材及製材ニ属スルモノ
				器具機械費	
				雑具及印刷	
				支給品	諸用紙、帳簿、雑誌印刊、消耗品及雑品ノ類
				諸材料	金物及小屋掛仮建材其ノ他ニ要スル諸材料品
				通信運搬費	
				給与	現業員、助手、職工人夫、恩給手当及退職、雇託手当等
				官吏給	
				傭人料	職工人夫賃及製材所ニ使用スル給仕小使等雇傭ノ給
				食用品	伐木、造材、運材ニ使用スル職工人夫ニ現品ヲ以テ給スル
				被服費	製材所小使被服費、定米法等

				運材費	運材人夫賃及運送手段並圍於仮建物
				雑費	前掲所載ノ費目ニ要スル雑費（圍障材及支柱用木竹運搬費ヲ除ク）
			製材手斧委託販		
			林産物処分		林産物処分ニ關スルモノ
				營屋建設費	
				圍障竝仮假廂	
				支柱品	
				通信運搬費	
				雇員給	
				傭人料	
				雑費	倉庫、公會所等仮建築費ノ類
				基本費	
				給料	
			造林費		造林事業ニ關スルモノ
				營屋建設費	
				圍障竝仮假廂	
				支柱品	
				苗木料	土木事業仮試ニ要スル苗木苗種品

				通信運搬費	雑費ノ部ニ準ス
				雇員給	
				傭人料	造林事業ニ傭入ノ給料
				諸謝金	指圖者ニ支拂フ
				營屋建設費	
				圍障竝仮假廂	
				支柱品	
				苗木料	造林事業ニ要スル苗木苗種品
				運材費	運材人夫賃及運送手段並圍於仮建物
				雑費	前掲所載ノ費目ニ要スル雑費（圍障材及支柱用木竹運搬費ヲ除ク）
			製材手斧委託販		
			林産物処分		林産物処分ニ關スルモノ
				營屋建設費	
				圍障竝仮假廂	
				支柱品	
				通信運搬費	
				雇員給	
				傭人料	
				雑費	倉庫、公會所等仮建築費ノ類
				基本費	
				給料	
			造林費		造林事業ニ關スルモノ
				營屋建設費	
				圍障竝仮假廂	
				支柱品	
				苗木料	土木事業仮試ニ要スル苗木苗種品

				通信運搬費	雑費ノ部ニ準ス
				雇員給	
				傭人料	苗木植栽ニ傭入ノ給料
				諸謝金	指圖者ニ支拂フ
				營屋建設費	
				圍障竝仮假廂	
				支柱品	
				苗木料	土木事業仮試ニ要スル苗木苗種品
			造林費		苗木事業ニ關スルモノ
				給料	
				基本費	
				諸謝金	倉庫、公會所等仮建築費ノ類
				雇員給	
				傭人料	
				通信運搬費	
				支拂品	
				營屋建設費	
				圍障竝仮假廂	
				支柱品	
				苗木料	土木事業仮試ニ要スル苗木苗種品

				通信運搬費	雑費ノ部ニ準ス
				雇員給	
				傭人料	苗木植栽ニ傭入ノ給料
				諸謝金	指圖者ニ支拂フ
				營屋建設費	
				圍障竝仮假廂	
				支柱品	
				苗木料	土木事業仮試ニ要スル苗木苗種品
			造林費		苗木事業ニ關スルモノ
				給料	
				基本費	
				諸謝金	倉庫、公會所等仮建築費ノ類
				雇員給	
				傭人料	
				通信運搬費	
				支拂品	
				營屋建設費	
				圍障竝仮假廂	
				支柱品	
				苗木料	土木事業仮試ニ要スル苗木苗種品

國有林野經營費（森林費ノ解疏ニ準ス）
　俸給及諸給
　　奏任俸給
　　　書記官
　　　事務官
　　　林務官
　　　鑑定官
　　　技師
　　判任俸給
　　　屬
　　　技手
　　退官賜金
　　死亡賜金
　　休職俸給
　死傷手當
　　死傷手當
　賠償及訴訟費
　　賠償金

　　訴訟費
　旅費
　　內國旅費
　　外國旅費
　事業費
　　共通費
　　　器具機械費
　　　圖書及印刷費
　　　支消品
　　　諸材料
　　　通信運搬費
　　　標本費
　　　雇員給
　　　傭人料
　　　被服費
　　　標柱費
　　　種苗購買費
　　　雜費　寫字料、廣告料、機械類保存料、賄費、舟車馬匹借賃、苗圃肥料、家屋其他借料、翻譯料、謝金、諸手數料ノ類

			苗圃其他建物營繕	苗圃試驗場、貯材用建物並附屬物件ノ新營修繕及林道附帶運輸用建物ノ新營並電話架設共
		官吏療治料		
		給與		
		森林買上費		
	營繕費			
		各所新營		
		各所修繕		
足尾國有林復舊費				（森林費ノ解疏ニ準ス）
	足尾國有林復舊費			
		奏任俸給		
			技師	
		判任俸給		
			屬	
			技手	
		內國旅費		
		事業費		
			器具機械費	
			支消品	

			諸材料	
			通信運搬費	
			雇員給	
			傭人料	
			種苗購買費	
			雜費	
			給與	
荒山處分調費				（森林費ノ解疏ニ準ス）
	荒山處分調費			
		奏任俸給		
			技師	
		判任俸給		
			技手	
		內國旅費		
		事業費		
			器具機械費	
			支消品	
			通信運搬費	

			雇員給
			傭人料
			雜費
			標柱費
			給與

森林資金歲入

款	項	目	
林野拂下代			
	林野拂下代		
		林野拂下代	

森林資金歲出

款	項	目	
歲入臨時部繰入			
	森林資金繰入		
		森林資金繰入	

○農商務省訓令第五號

明治四十年度歲出科目左表ノ通心得ヘシ

明治四十年四月一日

農商務大臣松岡康毅　府縣

科目表

歲出臨時部

款	項	目	節	款	項	目	節
植樹奬勵費							通信運搬費
	植樹奬勵費					內國旅費	
		奏任俸給				雜給及雜費	
			技師				雇員給
		判任俸給					傭人料
			技手				雜費
		廳費				事業費	
			備品費				傭人料
			筆紙墨文具				種苗購買費
			消耗品				旅費

○農商務省訓令第六號

鮑及海鼠ハ共ニ重要水產物ニ屬シ其ノ製品ハ乾鮑罐詰鮑及海參トナシ清國ニ輸出セリ然ルニ其ノ形體ハ漸次細小トナリ其ノ生產額ハ逐年減少ノ趨勢ニ在リ故ニ其ノ種族ノ蕃殖ヲ保護シ生產ノ增進ヲ圖ルハ水產經濟上ノ要務タリ從來各地方ニ於テハ漁業法ノ規定ニ基キ採捕ノ寸尺又ハ漁具漁

道廳　府縣

法漁期ノ制限禁止ノ制ヲ設ケ以テ蕃殖保護ノ取締ヲ爲スアリト雖モ現ニ開港場ニ就キ右等商品ヲ見ルニ往々細小ノモノニレテ到底禁止制限ノ範圍ニ屬スルモノヨリ製造シタリト認ムヘカラサルモノアリ元來鮑海鼠ノ如キハ磯付生物ニ屬スルヲ以テ濫捕濫獲ニ放任センカ其ノ種族ヲ絕滅シ重要ノ輸出品ヲ失フニ至ルヤ計リ知ルヘカラス且罐詰鮑ノ若キハ曾ニ罐内ニ小形ノモノヲ塡充スルノミナラス其ノ容量ヲ一定セサルカ爲メ貿易市場ノ信用ヲ毀損シ需要ヲ減殺スルモノ亦尠カラス故ニ斯ノ如キ弊害ヲ除去センニハ製品ノ檢査ヲ爲シ最小形製品ノ賣買ヲ禁止スルコトヲ要ス仍テ左ニ例示セル標準ニ據リ取締規則ヲ設ケ又ハ水產組合ヲシテ製品ノ檢查ヲ行ハシメ以テ蕃殖保護ノ目的ヲ達スルト同時ニ商品信用ノ維持ヲ圖リ永遠ノ利益ヲ擧クルコトヲ期スヘシ

明治四十年四月十八日

農商務大臣松岡康毅

一　乾鮑及罐詰鮑

生鮮時ノ尺寸	製品種類	最小形賣量（一箇ニ付）
殼長二寸五分	明鮑	二匁
	灰鮑（臟腑付）	二匁六分
	同（臟腑拔）	二匁二分
	罐詰鮑	五匁
殼長三寸	明鮑	三匁
	灰鮑（臟腑付）	三匁五分

但シ殼長ノ制限ヲ設ケサル地方ニ於テハ其ノ實況ニ應シ適宜之ヲ規定スルコトヲ要ス、罐詰鮑ハ一封度額ノ內容內盛六十匁以上タルヲ要ス

二　海參

生鮮時ノ尺寸	製品種類	最小形賣量（一箇ニ付）
殼長三寸五分	明鮑	五匁
	灰鮑（臟腑付）	七匁五分
	同（臟腑拔）	五匁五分
	罐詰鮑	十匁五分
	同（臟腑拔）	三匁二分
	罐詰鮑	七匁五分

抽獲制限寸尺	最小形箇數（一斤ニ付）
體長五寸（三重縣）	五十箇
體長八寸五分（長崎縣）	四十箇
但シ海鼠ハ三歲兒以上タルヲ要ス而シテ其ノ皮長發育ハ地方ニ依リ異同アルヲ以テ實際調査ノ上制限ヲ規定スヘシ	

抽獲制限寸尺	最小形箇數（一斤ニ付）
體長七寸五分（北海道）	四十三箇

○農商務省訓令第七號

足尾國有林復舊事業ノ成績報告樣式ハ明治三十三年八月農商務省訓令第三十號樣式ヲ準用スル儀ト心得ヘシ

東京大林區署

明治四十年四月二十五日

農商務大臣松岡康毅

○農商務省訓令第八號

家禽飼養ノ事業ハ農家ノ副業トシテ簡易ニ行ハレ且其ノ收益鮮少ニアラサルヲ以テ之カ奬勵ニ就テハ最ニ屢々訓示スル所アリ近頃飼禽者ノ增加ヲ見ルニ至レルモ其ノ生產ハ未タ需要ヲ充スコト能ハス輸近海外ヨリ輸入スル鷄卵ノ價額一年一百萬圓ヲ超ヘ尙且漸次增加スルノ景況ヲ呈セリ本邦家禽業ノ萎靡振ハサル所以ヲ察スルニ在來禽種ハ劣等ニシテ採卵用又ハ肉用トシテ不適當ナルト飼養管理方法ノ宜シカラサルトニ依リ且飼禽者カ其ノ生產物ヲ適當ノ價格ヲ以テ販賣スルノ難キニ職由セサルハナシ故ニ斯業ノ發達ヲ企圖セムニハ之ニ從事スル者ヲシテ販賣組合ヲ設立セシメ共同シテ其ノ生產物ヲ市場又ハ消費者ニ販賣セシメハ仲介者ニ利益ヲ壟斷セラルル弊ナク能ク各自ノ利益ヲ增進スルコトヲ得ム加之尙斯業ニ關シ信用組合購買組合生產組合ヲ設立セシメハ資金ノ融通餘財ノ貯蓄家禽及飼料ノ購買機械ノ使用等ニ利便ヲ得テ斯業ハ堅實ニ農家ノ副業ト爲

スコトヲ得ヘシ

往年家禽ノ改良及其ノ飼養奬勵ノ唱道セラルルヤ鷄一羽數十圓卵一顆數圓ノ高價ヲ以テ賣買スル者アルニ至リ却テ家禽業ノ發達ヲ沮害セリ今ヤ農商務省ハ海外ヨリ種禽ヲ輸入シ之ヲ蕃殖シテ漸次一般希望者ニ頒タムトス抑々家禽ノ貴フヘキハ實益的ナルニ在リ決シテ種類ノ珍奇ニ非ラス又姿體ノ美ト羽毛ノ麗トニ非ラス要スルニ其ノ純粹種ナルト雜種ナルトヲ問ハス卵ノ多產ト肉ノ豐優トニ在ルナリ宜シク家禽業ニ關スル產業組合ノ設立ヲ奬勵スルニ際シ家禽飼養ノ目的ヲ愆ル勿カラシメ家禽業者ヲシテ既往ノ惡轍ヲ履マス健全ナル發達ヲ遂ケシムルコトヲ期スヘシ

明治四十年四月二十九日　農商務大臣松岡康毅

○統監府訓令第三號（官報　四月五日）

統監府鐵道管理局各部課分掌規程左ノ通定ム

明治四十年三月三十日　統監侯爵伊藤博文

統監府鐵道管理局各部課分掌規程

第一條　統監府鐵道管理局各部ニ課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

第二條　總務部ニ左ノ二課ヲ置ク

一　庶務課

二　計理課

第三條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　文書ノ收受發送ニ關スル事項

二　職員ノ進退賞罰及身分ニ關スル事項

三　統計及報告ニ關スル事項

四　他ノ部課ニ屬セサル事項

第四條　計理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　歲入歲出豫算決算及下檢査ニ關スル事項

二　歲入歲出ノ出納ニ關スル事項

三　鐵道財產原簿ニ關スル事項

四　物品ノ購買賣却及製作修理ノ計算ニ關スル事項

五　購買製作及修理ノ物品檢査ニ關スル事項

六　物品ノ保管及出納ニ關スル事項

第五條　工務部ニ左ノ四課ヲ置ク

一　主記課

二　監査課

三　保線課

四　工作課

第六條　主記課ニ於テハ部ノ庶務及他ノ課ニ屬セサル事務ヲ掌ル

第七條　監査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　工事ノ設計ニ關スル事項

二　工費豫算ニ關スル事項

三　工事ノ監督ニ關スル事項

第八條　保線課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　既成線路及建設物ノ保管ニ關スル事項

二　既成線路及建設物ノ修繕及新設ニ關スル事項

第九條　工作課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　車輛船舶ノ設計及其ノ審査ニ關スル事項

二　車輛船舶及器具機械ノ製作修理ニ關スル事項

第十條　運轉部ニ左ノ四課ヲ置ク

一　主記課

二　營業課

三　運轉課

四　調査課

第十一條　主記課ニ於テハ部ノ庶務及他ノ課ニ屬セサル事務ヲ掌ル

第十二條　營業課ニ於テハ旅客貨物ノ運賃及輸送ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　運轉課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　列車運轉ニ關スル事項

二　船舶運航ニ關スル事項

三　車輛船舶ノ保管ニ關スル事項

四　運轉及運航上ノ技術ニ關スル事項

五　鐵道用電氣通信ニ關スル事項

第十四條　調査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　運輸收入ノ調査ニ關スル事項

二　運輸成蹟ノ統計ニ關スル事項

第十五條　臨時建設部ニ左ノ二課ヲ置ク

一　主記課

二　工務課

第十六條　主記課ニ於テハ部ノ庶務及他ノ課ニ屬セサル事務ヲ掌ル

第十七條　工務課ニ於テハ線路及建設物ノ建設竝改良ニ關スル事務ヲ掌ル

附　則

第十八條　本規程ハ明治四十年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　明治三十九年七月十日統監府訓令第十三號ハ統監府鐵道管理局出張所ヲ龍山及平壤ニ設ケ所長ヲ置キ各部ノ事務ヲ分掌セシム

明治四十年三月三十日

統監侯爵伊藤博文

〔參照〕

明治三十九年七月十日統監府訓令第十三號ハ統監府鐵道管理局分課規程ナリ

○統監府訓令第四號（官報　四月五日）

明治四十年三月三十一日ヨリ統監府鐵道管理局出納官吏及出納員任命規程中左ノ通改正ス本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月三十日

統監侯爵伊藤博文

○統監府訓令第五號（官報　四月八日）

明治三十九年統監府訓令第十二號統監府鐵道管理局出納官吏及出納員任命規程中左ノ通改正ス本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月三十一日

第八條　保線課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　既成線路及建設物ノ保管ニ關スル事項

二　既成線路及建設物ノ修繕及新設ニ關スル事項

第九條　工作課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　車輛船舶ノ設計及其ノ審査ニ關スル事項

二　車輛船舶及器具機械ノ製作修理ニ關スル事項

第十條　運轉部ニ左ノ四課ヲ置ク

一　主記課

二　營業課

三　運轉課

四　調査課

第十一條　主記課ニ於テハ部ノ庶務及他ノ課ニ屬セサル事務ヲ掌ル

第十二條　營業課ニ於テハ旅客貨物ノ運賃及輸送ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　運轉課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　列車運轉ニ關スル事項

二　船舶運航ニ關スル事項

三　車輛船舶ノ保管ニ關スル事項

四　運轉及運航上ノ技術ニ關スル事項

五　鐵道用電氣通信ニ關スル事項

第十四條　調査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　運輸收入ノ調査ニ關スル事項

二　運輸成績ノ統計ニ關スル事項

第十五條　臨時建設部ニ左ノ二課ヲ置ク

一　主記課

二　工務課

第十六條　主記課ニ於テハ部ノ庶務及他ノ課ニ屬セサル事務ヲ掌ル

第十七條　工務課ニ於テハ線路及建設物ノ建設竝改良ニ關スル事務ヲ掌ル

附　則

第十八條　本規程ハ明治四十年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　明治三十九年七月統監府訓令第十三號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十九年七月統監府訓令第十三號ハ統監府鐵道管理局分課規程ナリ

○統監府訓令第四號（官報　四月五日）

明治四十年三月三十一日ヨリ統監府鐵道管理局出張所ヲ龍山及平壤ニ設ケ所長ヲ置キ各部ノ事務ヲ分掌セシム

明治四十年三月三十日

統監侯爵伊藤博文

○統監府訓令第五號（官報　四月八日）

明治三十九年統監府訓令第十二號統監府鐵道管理局出納官吏及出納員任命規程中左ノ通改正ス本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月三十一日

統監侯爵伊藤博文

第一條第一項中第一號及第二號ヲ左ノ如ク改ム

一　總務部及各出張所草梁計理事務所ニ主任出納官吏主任物品會計官吏分任物品會計官吏及出納員

二　各驛ニ分任出納官吏分任物品會計官吏及出納員但シ事務ノ狀況ニ依リ統監府鐵道管理局長官ノ指定スル各驛ニ於テハ當分ノ內分任出納官吏及分任物品會計官吏ヲ置カサルコトヲ得

第二條第一項中「分任乘車券類會計官吏」ヲ「分任物品會計官吏」ニ改ム

第四條第一項中「分任出納官吏」ノ下ニ「及分任物品會計官吏」ヲ「主任出納官吏」ノ下ニ「及主任物品會計官吏各」ヲ加ヘ第二項ヲ削除シ第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ分任出納官吏ヲ置カサル驛ノ出納員ハ京義線ニ在リテハ龍山新幕間ハ龍山出張所主任出納官吏瑞興新義州間ハ平壤出張所主任出納官吏馬山線ニ在リテハ草梁主任出納官吏ノ所屬トス

○統監府訓令第六號（闕號）

○統監府訓令第七號（闕號）

○統監府訓令第八號（闕號）

○統監府訓令第九號（官報　四月三十日）

明治三十九年統監府訓令第四號中左ノ通改正ス

明治四十年四月二十五日

統監侯爵伊藤博文

「及」ヲ削リ「警察分署」ノ下ニ「巡査派出所及巡査駐在所」ヲ加ヘ樣式中左ノ如ク加フ

何何理事廳 警察署 （何何理事廳 何地警察分署）	何地巡査派出（駐在）所

竪曲尺三尺
横同　八寸
厚同　八分

○內務省訓令第八號

明治三十八年四月內務省訓令第十號內務省土木出張所處務規程中左ノ通改正ス

明治四十年五月二十九日

內務省土木出張所

內務大臣原敬

第六條七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ八號ヲ九號トス

八　仕拂豫算目ノ流用

第七條

七　仕拂豫算節ノ設置

○內務省訓令第九號

明治三十三年四月內務省訓令第九號第二條ヲ左ノ通改正ス

明治四十年五月三十日

內務大臣原敬

北海道廳　府縣

第二條　左ニ掲ケタル場合ニ於テハ關係書類ヲ添ヘ其ノ都度本大臣ニ報告スヘシ

一　土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキ但シ前條ニ依リ稟伺シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　收用審査會ノ裁決ノ報告ヲ受ケ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキ

三　土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキ

〔參照〕

內務省訓令第九號（明治三十三年四月十六日）抄錄

第二條　左ニ掲ケタル場合ニ於テハ關係書類ヲ添ヘ其都度本大臣ニ報告スヘシ

一　土地收用法第九條第二項、第十九條、土地收用法施行令第五條第二項、第九條又ハ第十條第二項ニ依ル公告又ハ通知ヲ爲シタルトキ

二　起業者カ內閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年內ニ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキ

三　收用審査會ノ裁決ノ報告ヲ受ケ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキ

四　起業者カ土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年內ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキ

五　土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキ

○大藏省訓令第二十二號

明治三十二年六月大藏省訓令第四十五號樣式第二號市町村報告地價地租整理簿ヲ左ノ通改正ス

明治四十年五月四日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

（田租）ノ部　市町村報告地價地租整理簿　何市町村

（裁中△印ヲ付セル八朱書）

區分	摘要	地價	地租	各納期				土地臺帳集計現在額	比較增減	
				三期	四期	五期	六期		地價	地租
更	三十九年十二月一日報告	六五三八〇	四	一	四	四	一	六五三八〇	四	四
	四十年一月十五日報告	六五三八〇	四		四	四	一	六五三八〇	四	四
	四十年一月二十日報告	△三〇九五一〇	△二五三	一		△二	△八〇	六五三八〇	四	四
町		六五五三〇	四五六	一		九	八四七	六五三八〇	四	四

備考

一　本帳ハ市町村等ヨリ報告ニ係ル地租名寄帳地價地租合計額ヲ掲載整理スルモノトス

二　本帳ハ田租、市街宅地租、郡村宅地租、雜地租等ニ區分シテ調理スルモノトス但シ納期ノ關係上本文ノ區分ニ依リ難キモノアルトキハ適宜ニ區分スルモノトス

三　減額ニ係ル員數ハ朱記スルモノトス

四　各納期ニ於テ地租ヲ徵收セントスルトキハ市町村等ノ報告額ニ依リ之ヲ調定スルモノトス

五　各納期納額ニハ當該納期分ノミ記入スルトキハ其ノ期ノ地租ヲ乘シタルモノヲ掲クルモノトス

六　土地臺帳集計現在額地租欄ニハ地價ニ課率ヲ乘シタル地租額ヲ記載スルモノトス

○大藏省訓令第二十三號

明治三十八年十一月大藏省訓令第七十一號收納鹽等級記號附著方中左ノ通相改ム

明治四十年五月九日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

（記號雛形）中「以上各種共直徑三寸」ノ下ニ「但シ四十斤以下ノ預債包裝ニ附著スヘキモノニ限リ之ヲ直徑二寸ト爲スコトヲ得」ヲ加フ

○大藏省訓令第二十四號

明治三十八年四月大藏省訓令第二十九號鹽務局經費取扱規程中左ノ通改正ス

明治四十年五月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

鹽務局

第十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

旅費ノ概算渡ハ一旅行ノ支給領五圓以上ノ場合ニ限ル

左ノ一條ヲ加フ

第十八條　支出計算書及仕拂計算書ノ會計檢査院審理ニ對スル答辯書ハ常省ヲ經由スヘシ

樟腦事務局

○大藏省訓令第二十五號

明治四十年四月大藏省訓令第一號樟腦事務局經費取扱規程第十一條第一項ヲ左ノ通改正ス

明治四十年五月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

旅費ノ概算渡ハ一旅行ノ支給領五圓以上ノ場合ニ限ル

○大藏省訓令第二十六號

警視廳　北海道廳　府縣　大臣官房會計課　造幣局

印刷局　煙草專賣局　稅關　稅務監督局　稅務署

樟腦事務局　釀造試驗所　鹽務局　大藏省臨時建築部

本年三月大藏省訓令第十二號明治四十年度大藏省所管歲入科目表歲入臨時部第二款雜收入中ニ第六項利子收入第一目利子收入ノ項目ヲ追加ス

明治四十年五月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○陸軍省訓令丙第十號

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通增設ス

明治四十年五月二日

陸軍大臣寺內正毅

大阪砲兵工廠作業

歲入

款	項	目	節
大阪砲兵工廠作業收入			
	雜收入	次位ニ	
		△雜收	

△印增設

歲出

款	項	目	節
大阪砲兵工廠作業費			
	建造物補修費	次位ニ	
		△各所補足	

○陸軍省訓令丙第十一號

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通增設ス

明治四十年五月十八日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍一般

歲入經常部

款	項	目	節
官業及官有財產收入			
	官有物貸下料	建物貸下料上位ニ	
		△地所貸下料	

△印增設

歲出經常部

款	項	目	節
軍事費			
	修繕費	次位ニ	
		△[illegible]	
		△陸軍懲治隊木柵及非常門修繕	

千住製絨所作業

歲入

款	項	目	節
千住製絨所作業收入			
	雜收入	次位ニ	
		△辨償金	

○陸軍省訓令丙第十二號

明治四十年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通增設ス

明治四十年五月三十日

陸軍大臣寺内正毅

△印增設

歳出臨時部

款	項	目	節
砲臺建築費			
△澎湖島砲臺建築費	本位ニ		
△建設費			

○文部省訓令第十號

明治四十年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十年五月一日

大臣官房會計課　直轄諸學校　帝國圖書館

一歳出經常部學校及圖書館ノ款俸給及諸給ノ項中末位ニ賞與ノ目ヲ加フ

文部大臣牧野伸顯

○文部省訓令第十一號

明治四十年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十年五月三日

大臣官房會計課　直轄諸學校　帝國圖書館

一歳入經常部ノ部前年度繰入金ノ款末位ニ支出未濟金ノ項目ヲ加フ

文部大臣牧野伸顯

○文部省訓令第十二號

明治二十五年文部省訓令第二號市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料證書等ノ書式中左ノ通改正ス

明治四十年五月四日

北海道廳　府縣

文部大臣牧野伸顯

退隱料證書表面書式ノ次ニ「備考　前ニ退職給與金ヲ受ケタル者ニハ證書面中退隱料年額金若干ノ下ニ（但明治何年何月ヨリ明治何年何月マデ十年間ハ退隱料年額金若干）ト記スヘシ」ヲ加ヘ同上裏面書式ノ次ニ「備考　前ニ退職給與金ヲ受ケタル者ニ交付スル證書ニハ證書面中金若干（明治何年何月ヨリ明治何年何月マデ十年間ノ每期給額）ト記スヘシ」ヲ加フ

月ノ給額ハ金若干ノ下ニ（金若干　但明治何年何月ノ給額ハ金若干）

大臣官房會計課　直轄諸學校　帝國圖書館

○文部省訓令第十三號

明治四十年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十年五月四日

文部大臣牧野伸顯

一資金部歳入　特別資金收入ノ款中末位ニ東京盲啞學校資金寄付金ノ項目ヲ加フ

大臣官房會計課　直轄諸學校　帝國圖書館

○文部省訓令第十四號

明治四十年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十年五月八日

文部大臣牧野伸顯

一歳入經常部學校及圖書館ノ款諸收入ノ項中末位ニ生徒製成費收入ノ目海軍造兵生徒製成費收入ノ節ヲ加フ

大臣官房會計課　直轄諸學校　帝國圖書館

○文部省訓令第十五號

明治四十年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十年五月九日

文部大臣牧野伸顯

一歳出經常部學校及圖書館ノ款廳費ノ項家畜費ノ目中末位ニ交尾料ノ節ヲ加フ

大臣官房會計課　直轄諸學校　帝國圖書館

○文部省訓令第十六號

明治四十年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十年五月十一日

文部大臣牧野伸顯

一歳入臨時部中末位ニ前年度繰入金ノ款支出未濟金ノ項同名ノ目ヲ加フ
一歳出臨時部用途指定費ノ款同上ノ項中末位ニ教室移築竝增築ノ目ヲ加フ
一資金部歳入特別資金收入ノ款中末位ニ奬學資金歳入殘餘繰入ノ項目ヲ加フ

○文部省訓令第十七號

本年文部省訓令第四號東京帝國大學及京都帝國大學竝直轄諸學校ニ於ケル奬學寄附金委任經理規程第一條第三號中「直接」ノ二字ヲ削除ス

明治四十年五月三十日　　直轄學校
　　文部大臣牧野伸顯

〔參照〕
文部省訓令第四號東京帝國大學及京都帝國大學竝直轄諸學校ニ於ケル奬學寄附金委任經理規程（明治四十年三月三十日）
抄錄
第一條　帝國大學特別會計法第九條竝學校及圖書館會計法第十一條ニ依リ東京帝國大學及京都帝國大學竝直轄諸學校ニ於ケル奬學寄附金中左ニ揭クルモノハ其ノ寄附ノ全額ヲ帝國大學總長又ハ學校長ニ交付シ其ノ經理ヲ委任ス
一　學生生徒ニ貸與又ハ給與スヘキ學資
二　學生生徒ニ貸與又ハ給與スヘキ圖書機械器具標本ノ購買費
三　前各號ノ外直接學生生徒ノ奬學トナルヘキ經費

○農商務省訓令第九號

明治四十年農商務省訓令第四號科目表中歳出臨時部柚山處分調查費ノ款同名ノ項ノ末位ニ賞與ノ目ヲ設置ス

明治四十年五月二日　　農商務大臣松岡康毅

○農商務省訓令第十號

明治三十三年三月農商務省訓令第十一號大林區署會計事務章程中左ノ通改正ス

明治四十年五月十日　　農商務大臣松岡康毅

第七十五條但書中「專決」ヲ削ル
第七十七條中「國有林野及產物賣拂規則」ノ下ニ「同四十年三月當省令第三號國有林野產物製品賣拂規則」ヲ加フ
第九十七條ノ二　小林區署長ニ於テ物品買入又ハ不用物品賣拂ノ處分ヲ爲シタルモノハ該界物品取扱主任ヲシテ其ノ報告書ニ連署セシメ之ニ物品出納命令官捺印シテ物品會計官吏ニ交付スヘシ

物品會計官吏前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ出納命令書ニ代用シ受拂記帳ノ手續ヲ爲スヘシ
第百十四條ノ二　分任物品會計官吏ハ年度經過後又ハ交替後十日以內ニ物品出納報告書ヲ調製シ主任物品會計官吏ニ提出スヘシ
主任物品會計官吏前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ其ノ受拂ヲ物品出納簿ニ記入スヘシ
第百十五條、第百十七條及第百十八條中「物品會計官吏」ノ上ニ「主任」ヲ加フ
第百二十條第二項中「林產物品會計官吏」ノ下ニ「ヲ置キ又ハ製材場ニ分任物品會計官吏」ヲ加フ

○農商務省訓令第十一號

近時韓國、關東州及樺太等沿海ニ出漁スル者著シク增加シ又一般沖合ノ漁業大ニ進歩シ漸次遠距離ノ海洋ニ出漁スル者增加セリト雖モ其ノ漁船ハ尙ホ從來ノ日本形船ナルヲ以テ一朝風波ニ會センカ其ノ耐波力ノ薄弱ナル往々船體ヲ破壞シ或ハ覆沒セシメ爲ニ勇敢ナル漁夫ヲ失ヒ生產力ヲ減殺スルコト鮮少ナラス而シテ此ノ危險ハ遠海ニ出漁スル輕釣船、珊瑚採取船、繩船等ニ於テ其ノ多キヲ見ル又寒地ニ出漁スル漁船ニシテ甲板ノ設ナク漁夫ハ防寒具ヲ備ヘサルヲ以テ凍傷ノ爲メ動作ノ自由ヲ失シ終ニ其ノ生命財產ヲ毀損スルモノ亦多大ナリ殊ニ長崎縣及鹿兒島縣下ニ於ケル輕釣船、珊瑚採取船及大連附近ニ於ケル出漁船遭難ノ慘禍ヲ現出スルニ至リタルカ如キ必竟日本形漁船ハ其ノ船體ノ脆弱ナルト設備ノ不完全ナルトニ基因セルモノト謂フヘシ依テ左ニ遠洋出漁者

ノ注意スヘキ事項ヲ示ス宜シク右ニ準據シ當業者ヲ奬勵シ遵守ヲ期スヘシ

明治四十年五月十一日

農商務大臣松岡康毅

一 從來ノ日本形漁船ハ遠航ノ漁業ニ適セサルヲ以テ樺太、關東州及韓國等ノ沿岸ニ根據地ヲ設ケ移住出稼ノ漁業ヲ爲スモノヲ除クノ外漁期ニ方リ內地ヨリ往復スル漁船及內地ニ於ケル延繩釣、流網等ニ使用スル大形漁船ヲ新造セントスルモノハ可成遠洋漁船檢査規程ニ準據シ西洋形漁船ト爲サシメ若シ日本形漁船ナルトキハ左ノ規格ニ遵フコトヲ要ス

(イ)少クトモ船長三分ノ一間水密甲板ヲ張リ船室ヲ設クルコト但シ延繩釣船ノ如キ甲板ヲ不便トスルモノハ大ナル船口ヲ作リ「カンバス」及閂ヲ以テ必要ノ際水密ト爲シ得ルノ構造トナスコト

(ロ)船首部及必要ノ箇所ニ肋骨又ハ仕切板ヲ設クルコト

(ハ)戸立ハ根曲材又ハ鐵曲材ヲ以テ敷及棚ニ堅固ニ固著スルコト

(ニ)船首ニ可成標其ノ他ノ堅材ノ肘材ヲ取付クルコト

(ホ)延繩釣船ニ於テ生餌槽ヲ用フルモノハ可成活間トスルコト

二 西洋形漁船ヲ新造スル者ニハ遠洋漁業奬勵法ニ依リ奬勵金ヲ與フルノ途アルヲ以テ命令ノ規定ニ從フトキハ此ノ特典ヲ享クルコトヲ得ヘシ

三 風土惡殊ノ海洋ニ出漁スル者ハ衞生上ノ注意ヲ爲スハ勿論寒地ニ赴ク者ハ必ス防寒具ヲ備ヘシムルコトヲ要ス

林區署

○農商務省訓令第十二號

明治三十九年九月農商務省訓令第三十四號製材職工定夫規則中左ノ通改正ス

明治四十年五月三十一日

農商務大臣松岡康毅

林區署

第五十六條第一項第二號削除

○農商務省訓令第十三號

明治三十四年三月農商務省訓令第四號林區署旅費規則中左ノ通改正シ明治四十年六月一日ヨリ施行ス

明治四十年五月三十一日

農商務大臣松岡康毅

第六條ノ三 森林主事教習規則ニ依リ林務教習ノ爲教習地ニ出張シ滯在シタルトキハ日數ニ應シ五十錢以內ノ日額ヲ支給ス

乙號表

等	級	日額
一等 二等 小林區署長	奏任	一圓五十錢
	判任官一等	四
三等 小林區署及保護區詰員	判任官七十錢	
四等	雇員 六十錢	

道廳 府縣

○農商務省訓令第十四號

露領沿海州出漁ニ關シ報告事項ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十年五月三十一日

農商務大臣松岡康毅

報告事項 報告期限

一 船主、船名、船數、漁夫其他使用人ノ員數及出向地方 毎翌月十日

二　露國官廳ヨリ免許ヲ得タル者ノ　氏名名稱、漁區ノ
　名稱、位置借區料及借區條件
三　各漁區別收獲數量及價額

〇遞信省訓令第一號

船舶鑑札規則施行手續左ノ通之ヲ定メ明治四十年七月一日ヨリ施行ス

明治四十年五月二十三日　　遞信大臣山縣伊三郎

船舶鑑札規則施行手續

第一條　地方官廳ハ第一號書式ノ船舶鑑札臺帳ヲ備置キ船舶鑑札規則ニ依リ船舶鑑札ヲ受有スル船舶ノ件名及船舶鑑札ノ交付書換再交付若ハ返還ノ年月日竝事由ヲ記載スヘシ

船舶鑑札規則第十二條第一項ノ規定ニ依リ船舶鑑札ノ返還アリタルトキハ同項各號ノ事實アリタルヤ否ヲ審査シ必要ト認ムルトキハ實地臨檢シタル上船舶鑑札臺帳中當該船舶ニ對スル記載面ニ消印ヲ押捺シテ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

船舶鑑札臺帳ニハ索引ヲ附スヘシ

第二條　船舶ニハ番號ヲ黥附シ之ヲ船舶鑑札及船舶鑑札臺帳ニ記載スヘシ

第三條　船舶鑑札規則第八條第二項又ハ同則第九條第一項ノ規定ニ依リ乙地方官廳ニ於テ通知ヲ受ケ又ハ船舶鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケ船舶鑑札ヲ交付シタルトキハ共ノ旨遞滯ナク甲地方官廳ニ通知スヘシ

甲地方官廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ船舶鑑札臺帳中當該船舶ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四條　地方官廳ニ於テ船舶鑑札規則第十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ船舶鑑札ノ返還ヲ受ケタルトキハ遞滯ナク之ヲ廢棄スヘシ

第五條　地方官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ船舶法ノ適用ヲ受クヘキモノト爲リタルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遞滯ナク船舶鑑札臺帳ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ管轄管海官廳ニ通知スヘシ

第六條　管海官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ積量ニ異動アルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遞滯ナク船舶鑑札臺帳ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ管轄地方官廳ニ通知スヘシ

船舶法ノ規定ニ依リ積量ノ改測ヲ爲シタル船舶ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第七條　船舶鑑札ニ記載スル長、幅、深ハ尺ヲ以テ單位トシ單位以下二位ニ止メ噸數、石數及公稱馬力ハ單位ニ止ム

第八條　地方官廳ハ每年一月、四月、七月及十月中ニ於ケル船舶ノ異動ヲ第二號書式ニ依リ遞信省ニ報告スヘシ

第九條　地方長官ニ於テ船舶鑑札規則ノ施行ニ關シ規程ヲ設ケントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

第十條　明治二十九年十二月遞信省訓令第四號船舶鑑札規則施行手續ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十一條　第八條ノ報告ハ本手續施行ノ年ノ七月ニハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十二條　本手續施行ノ際現ニ船舶鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船舶鑑札規則第十八條ノ規定ニ依リ新船舶鑑札ヲ受有スルヲ待タス第二條ニ規定スル番號ヲ黥附シ現ニ備附ノ船舶鑑札臺帳ニ之ヲ記載スヘシ

前項ノ船舶ニ關スル件名ハ別ニ定ムル用紙ニ記載シ本手續施行後三箇月內ニ遞信省ニ報告スヘシ

第一號書式

番號	進水年月

船種船名	船籍港	尺度 長	尺度 幅	尺度 深	積量 總噸數	積量 登簿噸數	公稱馬力	船鑑札交付年月日	所有者住所氏名	記事

第二號書式

船舶報告（自明治　年　月　至明治　年　月）

備考

一、船種ヲ示スニハ汽、機又ハ帆ト記載スヘシ

二、石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石數ヲ總噸數ノ欄ニ記載シ尺度ハ之ヲ記載スルニ及ハス

三、各欄ノ事項中記載スヘキモノナキトキハ斜線ヲ畫レ、明ナラサルモノアルトキハ不詳ト記載スヘシ

四、新ニ船鑑札ヲ交付シタル場合又ハ其ノ記載事項ノ變更ニ因リ之ヲ書換ヘタル場合ニハ其ノ年月日

八、船鑑札ヲ交付シタル場合又ハ其ノ事由ハ記載事項ノ欄ニ記載スヘシ

五、船鑑札ヲ再交付シタル場合ニハ毀損ニ因リ之ヲ書換ヘタル場合又ハ其ノ返還アリタル場合ニハ其ノ年月日及事由ハ記載事項ノ欄ニ記載スヘシ

第一　汽船ノ部

新ニ船鑑札ヲ交付シタル船舶

番號	船名	船籍港	尺度 長	尺度 幅	尺度 深	總噸數	登簿噸數	公稱馬力	進水年月	船鑑札交付年月日	所有者氏名

第二　船鑑札ヲ書換ヘタル船舶

番號	船名	事項	所有者氏名
	新		
	舊		

第三　船鑑札ヲ返還シタル船舶

番號	船名	船鑑札返還事由	所有者氏名

帆船ノ部

第一　新ニ船鑑札ヲ交付シタル船舶

番號	船名	船鑑札返還事由	所有者氏名

番號	船名	總噸數	登簿噸數	船鑑札交付事由

第二　船鑑札ヲ書換ヘタル船舶

番號	船名	變更事項
		新舊何々、、何々、、何々、、

第三　船鑑札ヲ返還シタル船舶

番號	船名	船鑑札返還事由

備考

一　報告ノ事項中明ナラサルモノハ其ノ欄内ニ不詳ト記載スヘシ

二　船鑑札交付事由欄ニハ新造、外國船購入、何府縣ヨリ轉入、登簿船ヨリ編入等船鑑札ヲ交付シタル原因ヲ記載シ且ツ管轄官廳ニ變更アリタル場合ニシテ報告ノ事項中ニ新舊異動アリタルトキハ各相當欄ニ新舊事項ヲ併記スヘシ

三　船鑑札ヲ書換若ハ再交付ヲ爲スモ第一表ノ事項ニ變更ナキトキハ報告スルニ及ハス

四　船名又ハ所有者ニ變更アリタルトキハ各相當欄ニハ舊船名又ハ舊所有者名ヲ記載シ變更事項欄ニハ新船名又ハ新所有者名ノミヲ記載スヘシ

五　發動機船ハ汽船ノ部ニ記載シ船名ノ右肩ニ「機」字ヲ附記スヘシ

六　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石數ハ總噸數ノ欄ニ記載スヘシ

七　船鑑札返還事由欄ニハ滅失、沈沒、解撤、國籍喪失、存否不明、何府縣ヘ轉出、登簿船ニ編入等船鑑札ヲ返還シタル原因ヲ記載スヘシ

八　船鑑札規則第八條及第九條ノ場合ニ於テハ船鑑札蓋帳ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキヲ以テ船鑑札ノ返還アリタルモノトシテ處理スヘシ

○統監府訓令第十號（官報　五月七日）

統監府事務分掌規程左ノ通定ム

明治四十年四月二十七日

統監府事務分掌規程

統監侯爵伊藤博文

第一條　統監府ニ總務部、外務部、農商工務部及警務部ノ四部ヲ置ク

總務部ハ總務長官、外務部ハ外務總長、農商工務部ハ農商工務總長、警務部ハ警務總長之ヲ掌理ス」部ハ之ヲ課ニ分チ課長ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム

第二條　總務部ニ左ノ五課ヲ置ク

一　祕書課

二　人事課

三　文書課

四　會計課

五　地方課

第三條　祕書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密文書及暗號電信ノ接受發送ニ關スル事項

二　統監ノ特命ニ係ル事項

第四條　人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官吏、囑託員及雇員ノ進退身分ニ關スル事項

二　褒賞ニ關スル事項

三　傭聘ニ關スル事項

第五條　文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　文書ノ接受、配布、發送、保管、編纂及刊行ニ關スル事項
二　統監、總務長官及統監府ノ官印ノ管守ニ關スル事項
三　統計及報告ニ關スル事項
四　圖書ノ保管ニ關スル事項
五　他部課ノ主管ニ屬セサル事項

第六條　會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　經費及收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項
二　官有財產及物品ニ關スル事項
三　營繕ニ關スル事項
四　會計ノ監査ニ關スル事項

第七條　地方課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　地方行政ニ關スル事項
二　敎育及宗敎ニ關スル事項
三　兵事及戶籍ニ關スル事項
四　銀行及金融ニ關スル事項
五　土木ニ關スル事項

第八條　外務部ニ左ノ二課ヲ置ク
一　韓國課
二　外國課

第九條　韓國課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　韓國政府トノ交涉ニ關スル事項
二　韓國人ニ關スル事項
三　調見及敍勳ニ關スル事項

第十條　外國課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　各國領事官トノ交涉ニ關スル事項
二　外國人ニ關スル事項
三　條約及取極書ニ關スル事項

第十一條　農商工務部ニ左ノ四課ヲ置ク
一　商工課
二　農林課
三　水產課
四　鑛務課

第十二條　商工課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　商工業ニ關スル事項
二　移民保護ニ關スル事項
三　度量衡ニ關スル事項
四　交通運輸ニ關スル事項

第十三條　農林課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　農業ニ關スル事項
二　山林ニ關スル事項
三　氣象ニ關スル事項

第十四條　水產課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　水產業及鹽業ニ關スル事項
二　水產組合ニ關スル事項

第十五條　鑛務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　鑛業ニ關スル事項
二　鑛泉及土石採取業ニ關スル事項

第十六條　警務部ニ左ノ三課ヲ置ク
一　警務課
二　保安課
三　衞生課

第十七條　警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　警察配置ニ關スル事項
二　任用、敎習、賞罰及紀律ニ關スル事項
三　經理ニ關スル事項

第十八條　保安課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　高等警察ニ關スル事項
二　行政警察ニ關スル事項
三　司法警察ニ關スル事項
四　裁判及監獄ニ關スル事項

第十九條　衞生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　傳染病豫防檢疫ニ關スル事項

二　保健衞生ニ關スル事項
三　醫務ニ關スル事項

第二十條　統監府ニ法制審査會ヲ置ク
法制審査會ハ條約及法令ニ關スル提案疑義共ノ他重要ナル事項ヲ審議ス

第二十一條　法制審査會ハ委員長及委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス
法制審査會ニ幹事一名及書記若干名ヲ置キ庶務ニ從事セシム
委員長及委員ハ統監府高等官中ヨリ之ヲ命ス
幹事ハ委員、書記ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

○統監府訓令第十一號（官報　五月八日）
管內學事狀況ニ關シ每年五月三十一日限リ左記事項ヲ申報スヘシ
明治四十年四月二十八日

一　學事施設ノ要領
一　學齡兒童
就學ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ（別表ヲ添フヘシ）
一　各學校ノ現狀
左記各號ニ基キ學校每ニ一覽ヲ調製スヘシ
一　學校ノ名稱
一　沿革大要
一　課程表及敎科書配當表

統監侯爵伊藤博文

一校地、校舍、附屬舍ノ圖面（三百分ノ一）
一資產（別表ニ依ル）
一職員（別表ニ依ル）
一生徒又ハ兒童（別表ニ依ル但シ翌年度豫定數ヲモ記入スヘシ）
一圖書館
閱覽人ノ狀況、閱覽圖書ノ種類及其ノ閱覽人ヲ各別ニ記述スヘシ
一學校衞生
學校清潔方法施行狀況、學校醫ノ視察及生徒又ハ兒童ノ身體檢查ノ狀況、傳染病豫防及消毒ニ關スル施行ノ狀況、生徒又ハ兒童ノ健康ノ狀況ヲ學校別ニ記述スヘシ
一敎育會
組織竝事業ノ概況ヲ記述スヘシ
一學事關係職員及學事視察
學事關係職員ノ狀況及該職員等ノ學事ヲ視察シタル狀況ヲ記述スヘシ
一學事奬勵
學事奬勵ノ狀況ヲ記述スヘシ
一將來學事施設上須要ノ件
一以上ノ外學事ニ關シ特ニ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ
一公學費及資產
公立學校等ノ歲出入、學校基本財產及其ノ積立ノ方法其ノ他學校等ノ維持ニ係ル狀況ヲ記述スヘシ
一敎育補助金
敎育補助金ヲ受クル學校ハ其ノ使途ノ狀況ヲ記述スヘシ

以上ノ外學事經濟上ニ關シ特ニ申報スヘキ事項ト認ムルモノハ適宜記述スヘシ

右諸項ハ每統計年度ノ調查ニ依ル

本取調條項中表式アルモノハ表式ニ示ス事項ノ計數增減ノ事由ヲ各別ニ記述スヘシ

本令ニ統計年度トアルハ每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ謂フ

（別表）

學齡兒童表

種別	何居留民團	何地	何地	何地	何地	合計 男女別	合計
就學	尋常小學校ノ敎科ヲ修ムル者						
	尋常小學校ノ敎科ヲ卒ヘタル者						
	計						
不就學	疾病						
	貧窮						
	學校未設						
	其ノ他						

學	計	合計	未タ就學ノ始期ニ達セサル者	通計	就學歩合	既ニ就學ノ始期ニ達シタル男百人中就學	同右女百人中就學	同右男女百人中就學
男								
女								

何何學校資産表

種別		
敷地	坪數	
	價	
附屬地	坪數	
	價	
家屋	坪數	
	價	
圖書	點數	
	價	
器械標本	點數	
	價	
器具	點數	
	價	
學校基本財産	金額	
	土地 坪數	
	土地 價	
	建物 坪數	
	建物 價	
	其ノ他物件價格	

備考

何何學校職員表

資格	俸給	手當	擔任學年又ハ學科	職名	氏名	原籍	生年月

備考

注意　年度末現在調査ニ依ル

兒童學年學級男女別數表

（一例）

學年＼種別	男	女	計	學級數	教員
第一學年	七五	六〇	一三五	二	正教員何某 代用教員何某

	第二學年	第三學年	第四學年	補習科	計	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	計	合計	備考
	五〇	八	一五	一〇	一七五	一二	六	八	七	三七	二二二	
	二五	二五	七	三	一〇三	六	八	五	四	二〇	二三三	
	七五	三三	二三	一三	二七八	一八	一五	一二	七	五七	三三五	
	一	一	一	一	五	一	一	一	一	二	七	
	正教員何某	正教員何某	准教員何某	正教員何某	正教員何名	正教員何某	正教員何某	正教員何某	正教員何某	正教員何名	正教員何名代用教員何名	

注意

年度末現在調査ニ依ル

翌年度（見當）豫定數表ハ本表ニ準シ調製スヘシ

小學校以外ノ學校ニアリテハ本表ニ準シ調製スヘシ

○統監府訓令第十二號（官報　五月十六日）

明治三十八年十一月勅令第二百二十七號ニ依リ罰金、科料過料、刑事追徴金、訴訟費用及非訟事件ノ費用ヲ收入印紙ヲ以テ納付セシムル場合ニハ別紙樣式ノ納付書ニ收入印紙ヲ貼付シテ差出サシメ其ノ納人ニハ別紙樣式ノ納付濟證ヲ交付スヘシ

印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘシ

明治四十年五月十日

統監侯爵伊藤博文

（別紙）

納付書樣式

納付書

㊀事件主任官印

契印

一金

何何被告事件罰金（追徴金等）（何何圓ノ內）

右收入印紙ヲ以テ上納候也

㊁取扱者印

明治　年　月　日

住所

氏名㊂

（代納者何某㊂）

法務院（理事廳）御中

備考　用紙ハ美濃紙トス

納付濟證樣式

納付濟證			
契印	金額	金	㊞取扱者印
納付雜務者			
種類			
書換年月日	明治　年　月　日		
納付年月日	明治　年　月　日		
法務院（某理事廳）㊞			

備考　用紙ハ美濃紙四ツ切

○統監府訓令第十三號（官報　五月十六日）

統監府財政監査廳事務分掌規程左ノ通定ム

明治四十年五月十日

統監侯爵伊藤博文

統監府財政監査廳事務分掌規程

第一條　統監府財政監査廳ニ總務部、稅關部、理財部、稅務部及主計部ノ五部ヲ置ク

部ニ部長ヲ置ク部長ハ課長ノ中ヨリ之ニ充ツルコトヲ得

部ハ之ヲ課ニ分チ課長ヲ置ク

第二條　總務部ニ左ノ二課ヲ置ク

一　庶務課

二　經理課

第三條　庶務課ニ於テハ文書、統計、人事及法規ノ審査竝他部課ニ屬セサル事項ヲ掌ル

第四條　經理課ニ於テハ會計、建築及土木ニ關スル事項ヲ掌ル

第五條　稅關部ニ左ノ二課ヲ置ク

一　關稅課

二　關稅工事課

第六條　關稅課ニ於テハ關稅及外國貿易ニ關スル事項ヲ掌ル

第七條　關稅工事課ニ於テハ港灣ノ改築其ノ他貿易ノ設備ニ關スル事項ヲ掌ル

第八條　理財部ニ左ノ三課ヲ置ク

一　國庫課

二　監理課

三　農工銀行課

第九條　國庫課ニ於テハ國庫、國債及貨幣ニ關スル事項ヲ掌ル

第十條　監理課ニ於テハ銀行其ノ他金融機關ノ監督ニ關スル事項ヲ掌ル

第十一條　農工銀行課ニ於テハ農工銀行ニ關スル事項ヲ掌ル

第十二條　稅務部ニ左ノ三課ヲ置ク

一　國稅課

二　地方財務課

三　鹽稅課

第十三條　國稅課ニ於テハ租稅及稅外收入ニ關スル事項ヲ掌ル

第十四條　地方財務課ニ於テハ地方財務ニ關スル事項ヲ掌ル

第十五條　鹽稅課ニ於テハ鹽稅及水產稅ニ關スル事項ヲ掌ル

第十六條　主計部ニ左ノ二課ヲ置ク

一　司計課

二　檢查課

第十七條　司計課ニ於テハ豫算、決算及一般會計ノ整理ニ關スル事項ヲ掌ル

第十八條　檢查課ニ於テハ會計檢查ニ關スル事項ヲ掌ル

○內務省訓令第十號

樺太廳職員旅費規則左ノ通相定ム

明治四十年六月十四日

樺太廳長官　樺太廳

內務大臣原敬

樺太廳職員旅費規則

第一條　文官判任以上ノ者樺太內旅行ノ場合ニハ第一號表ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條　囑託員及雇員ノ內地及樺太內旅行ノ場合ニハ月俸又ハ月手當百圓以上ヲ受クル者ハ奏任官四十五圓以上ヲ受クル者ハ判任官ノ旅費ヲ支給ス

第三條　囑託員及雇員ノ日給者若ハ四十五圓未滿ノ月俸又ハ月手當ヲ受クル者及巡查ノ內地及樺太內旅行ノ場合ニハ第二號表ニ依リ旅費ヲ支給ス

第四條　傭人ノ內地及樺太內旅行ノ場合ニハ第三號表ノ旅費ヲ支給ス但シ諸職工人夫等其ノ業ニ從事シ賃錢ヲ受クル日ハ旅費ノ一部ヲ支給シ又ハ全ク之ヲ支給セサルコトヲ得

第五條　囑託員、雇員及巡查ノ轉勤スル場合ハ內國旅費規則第十七條ノ例ニ依ル

第六條　測量、巡視、踏查等ノ爲現場ヲ巡廻スル者及平常旅行ヲ要スル者ニ對シテハ樺太廳長官ハ豫メ月額又ハ日額ヲ定メ旅費ヲ減スルコトヲ得

前項巡廻旅行ト普通旅行トノ同日內ニ重リタルトキハ普通旅費ヲ支給ス

第七條　文官判任以上ノ者樺太ニ赴任スル場合ニハ當分ノ內第四號表ノ支度料ヲ支給ス

第八條　囑託員、雇員及巡查樺太ニ赴任スル場合ニハ當分ノ內第五號表ノ支度料ヲ支給ス

第九條　內地ヨリ樺太ニ旅行スル者ハ樺太最初ノ著船地迄ヲ內地旅行トシ樺太ヨリ內地ニ旅行スル者ハ樺太最後ノ乘船地迄ヲ樺太旅行トシテ各共ノ旅費ヲ支給ス但シ內地ヨリ樺太ヘ著船當日

ハ樺太旅費ノ日當樺太ヨリ内地ヘ乘船當日ハ内國旅費ノ日當ヲ支給ス

第十條　樺太廳職員判任以上ノ者勤續二年以上ニシテ廳官、退官（自己ノ便宜及懲戒ニ依ル退官ヲ除ク）若ハ休職トナリ三十日以内ニ樺太ヲ出發シ歸鄉スルトキハ内國旅費規則ノ定額ニ依リ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十一條　既ニ歸鄉旅費ノ支給ヲ受ケ三十日以内ニ出發歸鄉セサル者ハ之ヲ返納セシム

第十二條　在職中死亡シタルトキハ其ノ勤續年月數ニ拘ラス第十條ニ準シ歸鄉旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十三條　内地ニ旅行中廳官、退官（自己ノ便宜及懲戒ニ依ル退官ヲ除ク）若ハ休職トナリ又ハ死亡シタルトキハ其ノ旅行ノ公務ナルト私事ナルトヲ問ハス第十條ノ旅費又ハ第十二條ノ支給金ノ半額ヲ支給ス

第十四條　巡査ニシテ暫約期限後退職（懲戒ニ依ル退職ヲ除ク）シ二號表内地ノ定額ニ依リ旅費ヲ支給ス

第十五條　巡査ニシテ奉職中死亡シタルトキハ左ノ例ニ依リ歸鄉旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

一　樺太内ニ於テ死亡シタルトキハ其ノ全額

二　内地ニ旅行中死亡シタルトキハ其ノ半額

第十六條　囑託員及雇員ニシテ官ノ都合ニ依リ解職トナリ三十日以内ニ樺太ヲ出發シ歸鄉スルトキハ第二條第三條第十一條ノ例ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第十七條　囑託員及雇員ニシテ在職中死亡シタルトキハ第二條第三條第十二條ノ例ニ準シ歸鄉旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十八條　囑託員及雇員ニシテ内地ニ旅行中官ノ都合ニ依リ解職トナリタルトキハ第二條第三條ノ例ニ準シ旅費又ハ支給金ヲ支給スルコトヲ得

第十九條　歸鄉旅費及支給金ハ凡テ舊勤務地ヨリ原籍地迄ノ路程ニ應シ汽車賃、汽船賃及車馬賃ヲ支給シ日當、宿泊料ヲ支給セス

第二十條　本則第十條及第十六條ノ規定ハ本則施行ノ際樺太ニ在勤スル者ニ關シテハ本則施行前ヨリ在職年月數ニモ之ヲ適用ス

第二十一條　前各條ニ規定セサル事項ハ内國旅費規則ヲ適用ス

附　則

本規則ハ明治四十年四月一日以降ノ旅行ニ適用ス

第一號表

等級	汽車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜一日當ニ付	食卓料一日ニ付
一等勅任官	二十錢	二十錢	八十錢	三圓五十錢	一圓五十錢
二等奏任官	十五錢	十五錢	六十錢	二圓五十錢	一圓二十錢
三等判任官	十錢	十錢	四十錢	一圓六十錢	七十錢

第二號表

區分	汽車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜一日當ニ付	食卓料一日ニ付
内地	三錢	四錢	十錢	五十錢	三十錢
樺太	七錢	七錢	三十錢	一圓	五十錢

第三號表

區分	汽車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	食卓料一日ニ付
内地	二錢	三錢	七錢	三十錢	二十錢	三十錢
樺太	六錢	六錢	二十錢	七十錢	三十錢	三十錢

第四號表

等級	金額
一等勅任官	三百圓以内
二等奏任官	二百圓以内
三等判任官	百圓以内

第五號表

等級	金額
一等 月俸又ハ月手當百圓以上ヲ受クル者	二百圓以内
二等 月俸又ハ月手當四十五圓以上百圓未滿ヲ受クル者	百圓以内
三等 月俸又ハ月手當四十五圓未滿ヲ受クル者及巡査	五十圓以内

○内務省訓令第十一號

明治三十八年三月内務省訓令第四號中第二項ヲ削除ス

明治四十年六月二十九日

内務大臣原敬

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

【參照】

内務省訓令第四號（明治三十八年三月三十日）

河川法ヲ施行シタル河川ニ對シ各廳ニ於テ河川法第十七條乃至第十九條ニ記載シタル行爲ヲ爲サントスルニ當リ協議アリタルトキハ第十七條第十八條ノ行爲ニシテ本年内務省令第四號第一條第三號（但書ヲ除ク）第四號ニ該當スルモノ及第十九條ノ行爲ハ本大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス直ニ處分シ其以外ノ行爲ハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ認可ヲ要セス處分セシ事項ハ直ニ本大臣ニ報告スヘシ　但季節ヲ限リ一時ノ施設又ハ占用ニ係ルモノハ此ノ限ニアラス

○内務省訓令第十二號

明治三十八年三月内務省訓令第五號中第三條ヲ左ノ通改ム

明治四十年六月二十九日

内務大臣原敬

府縣

第三條　第一條第四號但書ノ場合ニ於テハ處分ノ後直ニ本大臣ニ報告スヘシ

【參照】

内務省訓令第五號（明治三十八年三月三十日）抄錄

第三條　第一條第一第二第三第四第五各號但書及第二條但書ノ場合ニ於テハ處分ノ後直ニ本大臣ニ報告スヘシ

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

○内務省訓令第十三號

明治三十八年四月内務省訓令第七號中第二項ヲ削除ス

明治四十年六月二十九日

内務大臣原敬

【參照】

内務省訓令第七號（明治三十八年四月一日）

當省ニ於テ直接施行スル河川工事ノ爲メ河川法第十七條ニ依レル工作物ノ除却又ハ第十八條ニ依レル占用許可ノ取消ヲ要スルモノニシテ本省土木出張所長ヨリ除却又ハ取消ノ通知ヲ爲シタルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス直ニ處分スヘシ

前項ニ依リ處分セシ事項ハ直ニ本大臣ニ報告スヘシ

○内務省訓令第十四號

明治二十三年十月内務省訓令第三十六號中第十一條ヲ削除ス

明治四十年六月二十九日

北海道廳　府縣

内務大臣原敬

〔參照〕

内務省訓令第三十六號（明治二十三年十月二十日）抄錄

第十一條　凡ソ一箇所ノ場所ヲ二人以上同時ニ埋立又ハ使用センコトヲ出願スル者アルトキハ共ニ内務大臣ニ具陳シテ其指令ヲ乞フ可シ

○内務省訓令第十五號

其派管長缺職ニ付後任管長就任ニ至ル迄ノ間大僧都岸壑緣ヲレテ宗制寺法ニ依リ管長ノ事務ヲ取扱ハシム

明治四十年六月二十九日

日蓮宗不受不施講門派

内務大臣原敬

○大蔵省訓令第二十七號

明治三十八年大蔵省訓令第三十二號鹽務局諸收入收納取扱規程中第四條ヲ左ノ通改メ第二號書式ヲ削ル

鹽務局

大蔵大臣法學博士阪谷芳郎

第四條　鹽務官吏ニ於テ口頭告知ヲ爲シタルトキハ共ノ時々之ヲ鹽務局長ニ報告スヘシ但シ鹽務局出張所在勤ノ鹽務官吏ノ報告ハ其ノ出張所長ヲ經由スヘシ

○大蔵省訓令第二十八號

警視廳　北海道廳　府縣　大臣官房會計課　造幣局

印刷局　煙草專賣局　税關　税務監督局　税務署

樟腦事務局　釀造試驗所　鹽務局　大蔵省臨時建築部

大蔵大臣法學博士阪谷芳郎

本年三月大蔵省訓令第十二號明治四十年度大蔵省所管歳入科目表歳入經常部第一款租税第十六項酒税追納中ニ第三目鹽税ノ目ヲ追加ス

明治四十年六月七日

大蔵大臣法學博士阪谷芳郎

○大蔵省訓令第二十九號

明治二十七年大蔵省訓令第十一號中左ノ通改正ス

明治四十年六月十日

北海道廳　府縣　税務監督局　税務署

大蔵大臣法學博士阪谷芳郎

地租名寄帳凡例第二號中「土地所有者」ヲ「地租納税者」ニ第四號及甲號樣式中「代納人」ヲ「納税管理人」ニ及凡例第三號ヲ左ノ如ク改メ又第十一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三　納税管理人アルモノハ地租納税者ノ左傍ニ共ノ住所氏名ヲ朱書スルモノトス

十二　乙號書式中府縣税及町村税ノ欄ハ別ニ帳簿ヲ備フルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

○大蔵省訓令第二十九號

明治二十七年大蔵省訓令第十一號中左ノ通改正ス

明治四十年六月十日

大蔵大臣法學博士阪谷芳郎

地租名寄帳凡例第二號中「土地所有者」ヲ「地租納税者」ニ第四號及甲號樣式中「代納人」ヲ「納税管理人」ニ及凡例第三號ヲ左ノ如ク改メ又第十一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三　納税管理人アルモノハ地租納税者ノ左傍ニ共ノ住所氏名ヲ朱書スルモノトス

十二　乙號書式中府縣税及町村税ノ欄ハ別ニ帳簿ヲ備フルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第一號國税金收納簿記簿凡例第六號及第七號ヲ左ノ如ク改メ第八號ヲ削ル

六　地租ニ關シテハ納期毎ニ地租名寄帳ノ地租額ニ依リ當該納期ノ納額ヲ計算シテ掲記スルモノトス

七　地租ノ收納簿ニハ末尾ニ每納期ノ租額合計ヲ附シ異動アル每ニ之ヲ整理シ之ニ依リ税務署ニ地租ノ納額ヲ報告スルモノトス

○大蔵省訓令第三十號

明治三十年大蔵省訓令第三十九號中左ノ通改正ス

明治四十年六月十日

税務監督局　税務署　收入官吏

大蔵大臣法學博士阪谷芳郎

地租收納簿備考第二號中「地租名寄帳ノ地租計額ヲ各納人別ニ明治三十五年法律第二十二號ニ依リ各納期ニ區分シ」ヲ「納期毎ニ地租名寄帳ノ地租額ニ依リ當該納期ノ納額ヲ計算シ」ニ及第四號ヲ左ノ如ク改メ第五號ヲ削ル

四　本簿ニハ末尾ニ毎納期ノ租額合計ヲ附シ異動アル毎ニ之ヲ整理スルモノトス

樟腦事務局

○大藏省訓令第三十一號

明治三十九年七月大藏省訓令第三十二號樟腦統計表帳調製規程樣式第二十二樟木代價調査表備考欄中第二項ヲ削リ(三ヲ(二)ト改ム

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

出納官吏　金庫出納役

明治四十年六月十三日

○大藏省訓令第三十二號

作業會計竝ニ海軍工廠資金會計金庫出納事務規程ヲ左ノ通リ相定メ明治四十年七月一日ヨリ施行ス

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

明治四十年六月二十六日

作業會計竝ニ海軍工廠資金會計金庫出納事務規程

第一章　總則

第一條　金庫ニ於テ此規程ニ據リ出納ヲ爲スハ造幣局、印刷局、製鐵所、電信電話用品製造所、東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠、千住製絨所、海軍工廠、海軍造兵廠、海軍下瀨火藥製造所、海軍採炭所ノ歲入歲出金トス

第二條　金庫ハ此規程ニ據リ作業會計竝ニ海軍工廠資金會計ノ歲入金ヲ領收シ之ヲ共仕拂元受金ニ組換ヲ爲シ又其仕拂命令官ノ仕拂請求書ニ據リ歲出ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第三條　金庫ニ於テ仕拂命令官ヨリ作業所据置運轉資本若クハ資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ翌年度仕拂元受金ニ組換ノ請求ヲ受ケタルトキハ直チニ其手續ヲ爲スヘシ但便宜ノ爲メ當該年度三月中ニ於テ本文金額ノ內幾部分ノ繰越方請求ノ場合ニ於テモ亦同シ

第四條　金庫ニ於テ仕拂命令官ヨリ年度開始前仕拂請求ノ書發行ノ必要ノ爲メ仕拂元受金ノ內翌年度仕拂元受金ニ組換ノ請求ヲ受ケタルトキハ普通ノ順序ニヨリ組換ヲナシタル上現金仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ニ據ル現金ノ拂出ハ年度開始前現金支出規則第二條ノ令達ヲ受クルニアラサレハ共拂出ヲ爲スヲ得ス

第五條　金庫ニ於テ仕拂命令官ヨリ案內仕拂請求書、集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂請求書、集合仕拂請求書、集合仕拂請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ環算及仕拂元受高ノ殘額ト照合シ環算各項ノ金額若クハ仕拂元受高ニ超過スルモノアルトキハ共事由ヲ具シ直チニ之ヲ當該仕拂命令官ニ返付スヘシ

第六條　金庫ハ每年度ノ案內仕拂請求書、集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂請求書、集合仕拂請求書ニシテ當該年度三月三十一日迄ニ歲出金トシテ拂出ノ計算ヲ爲シ得サルモノハ歲出支拂未濟繰越金トシテ繰越ノ手續ヲナスヘシ

第七條　作業會計規則竝ニ海軍工廠資金會計規則ニ據ル作業益金及材料物品賣拂益金ハ大藏大臣ノ令達ニ據リ國庫內移換ノ手續ヲ以テ仕拂元金ヨリ一般歲入ヘ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　金庫ニ於テ作業會計竝ニ海軍工廠資金會計歲入歲出金ノ出納ヲ爲スニ付此規程ニ記載ナキ歲入歲出ノ取扱ニ關スル事項及計算整理竝ニ報告表提出期限等ノ條項ハ總テ金庫出納事務規

程ノ例ニ據リ取扱フヘシ

第二章　帳簿及計算報告

第一款　中央金庫

第九條　中央金庫ハ金庫出納事務規程ニ規定シタル外作業會計規則竝ニ海軍工廠資金會計規則ニ據ル計算整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

第一　各地本金庫作業(海軍工廠資金)收支金報告領整理簿

第二　作業(海軍工廠資金)歲入金各廳內譯簿

第三　作業(海軍工廠資金)歲出仕拂元受高差引簿

第四　作業(海軍工廠資金)歲出支出簿

第十條　各地本金庫作業(海軍工廠資金)收支金報告領整理簿ハ各年度作業(海軍工廠資金)歲入又ハ作業(海軍工廠資金)歲出仕拂元金毎ニ之ヲ設ケ各取扱廳毎ニ歲入徵收官ヲ區分シ各本金庫ヨリ送付スル收支報告表ニ據リ其收支額ヲ登記シ從キ追テ毎月出納計算書ヲ受ケタルトキ之ヲ整理スヘシ其書式第一號ノ如シ

第十一條　作業(海軍工廠資金)歲入金各廳內譯簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ各取扱廳毎ニ歲入徵收官ヲ區分シ中央金庫ニ係ルモノハ各證憑書、中央金庫ニ關スル支金庫ニ係ルモノハ該支金庫ヨリ送付スル作業(海軍工廠資金)歲入金各廳內譯表ニ據リ毎日共歲入額ヲ登記スヘシ其書式第二號ノ如シ

第十二條　作業(海軍工廠資金)歲出仕拂元受高差引簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ中央金庫及之ニ關スル支金庫ヲ區分シ尙ホ各廳毎ニ仕拂命令官ヲ細別シ中央金庫ニ係ルモノハ仕拂命令官ヨリ送付スル作業(海軍工廠資金)歲出仕拂元受金ニ組換ノ請求ヲ受ケタルトキ資本持越高又ハ歲入金ヲ仕拂元受金ニ組換ヲナシタルトキ歲入ヨリ組換額ヲ登記シ仕拂命令官ヨリ仕拂請求書、集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂請求書ヲ受領セル都度仕拂請求書受領濟額ヲ登記シ現金ヲ仕拂タルトキ各證憑書ニ據リ仕拂額ヲ登記スヘシ又支金庫ニ係ルモノハ該支金庫ヨリ送付スル作業(海軍工廠資金)歲出仕拂元受高、仕拂請求書受領濟額及仕拂額ヲ登記スヘシ其書式ハ明治二十三年大藏省令第九號中第十七號書式ニ據ル

第十三條　作業(海軍工廠資金)歲出支出簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ各廳仕拂命令官毎ニ各款項ヲ區分シ大藏大臣ヨリ令達セラレタル豫算額ヲ登記シ從キ追テ仕拂命令官ヨリ案內仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂請求書、集合仕拂請求書ヲ受領セル都度仕拂請求書受領濟額ヲ登記スヘシ其書式ハ明治二十三年大藏省令第九號中第十六號書式ニ據ル

第十四條　中央金庫ハ現金出納原簿ヘ左ノ科目ヲ設ケ各地本金庫作業(海軍工廠資金)收支金報告領整理簿、作業(海軍工廠資金)歲入金各廳內譯簿、作業(海軍工廠資金)歲出仕拂元受高差引簿ノ合計額ヲ毎日登記スヘシ

某年度作業歲入

某年度作業歲出仕拂元金

某年度海軍工廠資金歲入

某年度海軍工廠資金歲出仕拂元金

第十五條　中央金庫ハ現金出納原簿ニ據リ毎日金庫出納事務規程ノ收支金報告表ヘ作業會計竝ニ海軍工廠資金會計ノ歲入及歲出仕拂元金ノ收支額ヲ掲ケ大藏省ヘ報告スヘシ

第十六條　中央金庫ハ作業(海軍工廠資金)歲入金各廳內譯簿ニ據リ毎月第三號書式ノ作業(海軍

工廠資金）歳入金月計對照表ヲ調製シ當該歳入徴收官ヘ又作業（海軍工廠資金）歳出仕拂元受高差引簿ニ據リ毎月第四號書式ノ作業（海軍工廠資金）歳出金月計對照表ヲ調製シ當該仕拂命令官ヘ送付スヘシ

前項歳出金月計對照表ハ當該官吏ノ證明ヲ受ケ毎月出納内譯書ニ添ヘ大藏省ヘ差出スヘシ

第十七條　中央金庫ハ作業（海軍工廠資金）歳出支出簿、同歳出仕拂元受高差引簿ニ據リ毎月作業（海軍工廠資金）歳出仕拂請求書受領濟領報告書ヲ調製シ當該仕拂命令官ニ差出シテ證明ヲ受ケ金庫出納役之ニ署名捺印シ毎月出納計算書ト共ニ大藏省ヘ差出スヘシ共書式ハ明治二十三年大藏省令第九號中第七號書式ニ據ル

第二款　本金庫

第十八條　本金庫ハ金庫出納事務規程ニ規定シタルモノノ外作業會計規則竝ニ海軍工廠資金會計規則ニ據ル計算整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

第一　作業（海軍工廠資金）歳入金各廳内譯簿

第二　作業（海軍工廠資金）歳出仕拂元受高差引簿

第三　作業（海軍工廠資金）歳出支出簿

第十九條　前條ニ掲クル諸帳簿ノ設置登記ニ關スル手續ハ中央金庫ノ例ニ準ス

第二十條　本金庫ハ現金出納原簿ヘ左ノ科目ヲ設ケ作業（海軍工廠資金）歳出仕拂元受高差引簿ノ合計領ヲ毎日登記スヘシ

某年度作業歳入

某年度作業歳出仕拂元金

某年度海軍工廠資金歳入

某年度海軍工廠資金歳出仕拂元金

第二十一條　本金庫ハ現金出納原簿ニ據リ毎五、十ノ日ニ金庫出納事務規程ノ收支金報告表ヘ作業會計竝ニ海軍工廠資金會計ノ歳入及歳出仕拂元金ノ收支額ヲ掲ケ報告スヘシ

第二十二條　本金庫ニ於テハ作業（海軍工廠資金）歳入歳出金月計對照表及仕拂請求書受領濟領報告書ヲ調製スヘシ但其手續ハ中央金庫ノ例ニ準シ當該官吏ノ證明濟月計對照表ハ毎月出納内譯書、仕拂請求書受領濟領報告書ハ毎月出納計算書ト共ニ中央金庫ヘ送付スヘシ

第三款　支金庫

第二十三條　支金庫ハ金庫出納事務規程ニ規定シタルモノノ外作業會計規則竝ニ海軍工廠資金會計規則ニ據ル計算整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

第一　作業（海軍工廠資金）歳入金各廳内譯簿

第二　作業（海軍工廠資金）歳出仕拂元受高差引簿

第三　作業（海軍工廠資金）歳出支出簿

第二十四條　前條ニ掲クル諸帳簿ノ設置登記ニ關スル手續ハ中央金庫ノ例ニ準ス

第二十五條　支金庫ハ現金受拂總括簿及現金受拂簿ニ左ノ科目ヲ設ケ作業（海軍工廠資金）歳入金各廳内譯簿、作業（海軍工廠資金）歳出仕拂元受高差引簿ノ合計領ヲ毎日登記スヘシ

某年度作業歳入

某年度作業歳出仕拂元金

某年度海軍工廠資金歳入

某年度海軍工廠資金歳出仕拂元金

第二十六條　支金庫ハ作業（海軍工廠資金）歳入金各廳内譯表ヲ調製シ本金庫ニ屬スル支金庫ニ在テハ工廠資金）歳入金各廳内譯表又作業（海軍工廠資金）歳出仕拂元金收支各廳内譯表ヲ調製シ本金庫ニ屬スル支金庫ニ在テハ

其本金庫ヘ、中央金庫ニ屬スル支金庫ニ在テハ中央金庫ヘ送付スヘシ

第二十七條　支金庫ニ於テハ作業(海軍工廠資金)歳出金月計對照表及仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製スヘシ但其手續ハ中央金庫ノ例ニ準シ當該官吏證明濟月計對照表及仕拂請求書受領濟額報告書ハ本金庫ニ屬スル支金庫ニ在テハ其本金庫ヘ、中央金庫ニ屬スル支金庫ニ在テハ中央金庫ヘ送付スヘシ

第三章　決算整理

第二十八條　中央金庫ハ金庫出納事務規程ノ毎年度出納計算書及毎月出納內譯書ヘ作業會計竝ニ海軍工廠資金會計ノ歳入及歳出仕拂元金ノ受拂額及其內譯額ヲ掲記スヘシ

毎年六月ノ出納內譯書ニハ前年度所屬歳入歳出出納明細書ヲ添付スヘシ

第二十九條　中央金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル毎月出納計算書中受拂ノ部ヘ中央金庫及之ニ屬スル支金庫ニ於テ一箇月中ニ出納シタル作業會計竝ニ海軍工廠資金會計ノ歳入及歳出仕拂元金ノ受拂額ヲ掲記シ又內譯ノ部歳入ノ區ノ次ニ「某年度作業歳入」「某年度海軍工廠資金歳入」ノ區又歳出ノ區ノ次ニ「某年度作業歳出仕拂元金」「某年度海軍工廠資金歳出仕拂元金」ノ區ヲ設ケ各其內譯額ヲ掲記スヘシ其書式ハ別ニ之ヲ定ム

第三十條　本金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル毎月出納內譯書及毎月出納計算書ヘ中央金庫ノ例ニ準シ作業會計竝ニ海軍工廠資金會計ノ歳入及歳出仕拂元金ノ各受拂額及其內譯額ヲ掲記スヘシ

毎年六月ノ出納內譯書ニハ前年度所屬歳入歳出出納明細書ヲ添付スヘシ

附則

第三十一條　明治二十六年十二月大藏省訓令第五十三號作業及鐵道會計金庫出納事務規程及明治三十八年三月大藏省訓令第二十二號海軍工廠資金歳入歳出ノ出納取扱方ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

「甲式書號一第」

某年度作業歳入

又ハ

某年度海軍工廠資金歳入

各地本金庫作業(海軍工廠資金)收支金報告額整理簿

中央金庫

(各書式中「」印ハ朱得ナリ)

何地本金庫

年月日		摘要	收支金報告年月日		每月出納計算年月	收入額			每月出納計算書整理額			仕拂元金ヘ組換額			每月出納計算書整理額		
						圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何ク		何	何ク		0						0					
何	何ク				何年何月ク				0						0		

「乙式書號一第」

某年度作業歲出仕拂元金

又ハ

某年度海軍工廠資金歲出仕拂元金

各地本金庫作業(海軍工廠資金)收支金報告額整理簿

中央金庫

何地本金庫

年月日		摘要	收支金報告年月日		每月出納計算書年月	仕拂元受高			每月出納計算書整理額			支出額			每月出納計算書整理額			仕拂元受高出額		
						圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何ク		何	何ク		0						0						0		
何	何ク		ク	ク	何年何月ク				0						0					

「第二號書式」

某　年　度

簿譯內廳各金入歲（金資廠工軍海）業作

中　央　金　庫

何廳　歳入徴收官官氏名

年月日		摘要	歳入			累計		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何		0					
	「ク」	「更正拂事由何々」	「0」			0		
何	何		0			0		
		何月分合計	0					
		「同上更正拂合計」	「0」					
		計合數	0					

「備考
支金庫報告ニ據リ記帳セシモノハ摘要欄内ニ
何地支金庫何年何月何日分ト付記スヘシ」

「第三號書式」

某年度作業(海軍工廠資金)歳入金
明治何年何月中月計對照表　第何號

廳名	金額			備考
	圓	錢	厘	
何　　聖	0			「更正拂0.但何々」

書面之通相違無之候也

明治何年何月何日

中央金庫「印」

歳入徴收官官氏名宛

「第四號書式」

某年度作業(海軍工廠資金)歲出金
明治何年何月中月計對照表　　第何號

摘要	仕拂元受高	仕拂額	備考
	圓 錢 厘	圓 錢 厘	
資本持越額	0		
歲入ヨリ組換額	0		
仕拂額		0	「定額戻入0.」
翌年度ヘ繰越		0	
歲出仕拂未濟繰越金ヘ繰越		0	
某年度歲入ヘ納付		0	
合計	0	0	

書面之通ニ付證明有之度證書何枚添付候也

明治何年何月何日

中央金庫「印」

仕拂命令官官氏名宛

證明ス

明治何年何月何日

仕拂命令官官氏名「印」

「第五號書式」

某年度作業(海軍工廠資金)歲入金
明治何年何月何日各廳內譯表　　第何號

摘要			金額
廳名	歲入徵收官	事由	圓 錢 厘
何廳	官氏名		0
「ク」	「ク」	「更正拂事由何々」	「0」

中央金庫(何地本金庫)所屬

何地支金庫「印」

「第六號書式」

某年度作業(海軍工廠資金)歲出仕拂元金

明治何年何月何日收支各廳內譯表　第何號

摘要			仕拂元受高			仕拂請求書受領濟額			仕拂額		
廳名	仕拂命令官	事由	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何廳	官氏名	「定額戻入」	0			0			0		
「ク」	「ク」					「0」			「0」		

中央金庫(何地本金庫)所屬

何地支金庫「印」

○大藏省訓令第三十三號

帝國鐵道及同用品資金會計竝ニ韓國鐵道及同用品資金會計金庫出納事務規程ヲ左ノ通リ相定メ明治四十年七月一日ヨリ施行ス

明治四十年六月二十六日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

帝國鐵道及同用品資金會計竝ニ韓國鐵道及同用品資金會計金庫出納事務規程

出納官吏　金庫出納役

第一章　總則

第一條　金庫ニ於テ此規程ニ據リ出納ヲ爲スハ帝國鐵道及同用品資金會計竝ニ韓國鐵道及同用品資金會計ノ歲入歲出金トス

第二條　金庫ニ於テ收納セル帝國鐵道會計竝ニ韓國鐵道會計ノ收益勘定歲入金及帝國鐵道用品資金會計竝ニ韓國鐵道用品資金會計ノ歲入金ハ各其仕拂元受金ニ組換ヲ爲シ又其仕拂命令官ノ仕拂請求書ニ據リ歲出ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第三條　金庫ニ於テ仕拂命令官ヨリ資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ翌年度仕拂元受金ニ組換ノ請求ヲ受ケタルトキハ直チニ其手續ヲ爲スヘシ但シ便宜ノ爲メ當該年度三月中ニ於テ本文金額ノ內幾部分ノ繰越方請求ノ場合ニ於テモ亦同シ

第四條　金庫ニ於テ仕拂命令官ヨリ年度開始前仕拂請求書發行ノ必要ノ爲メ仕拂元受金ノ內翌年度仕拂元受金ヘ組換ノ請求ヲ受ケタルトキハ普通ノ順序ニヨリ組換ヲナシタル上現金仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ニ據ル現金ノ拂出ハ年度開始前現金支出規則第二條ノ令達ヲ受クルニアラサレハ其拂出ヲ爲スヲ得ス

第五條　金庫ニ於テ仕拂命令官ヨリ帝國鐵道會計竝ニ韓國鐵道會計ノ歲出金及帝國鐵道用品資金會計竝ニ韓國鐵道用品資金會計ノ歲出金ニ係ル案內仕拂請求書、集合仕拂請求書若クハ金庫所

在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂請求書、集合仕拂請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ豫算及仕拂元受高ノ殘額（資本勘定歳出金ニ在テハ歳入組入又ハ歳入組入濟額ヲ控除シタル殘額）ト照合シ豫算各項ノ金額若クハ仕拂元受高（資本勘定歳出金ニ在テハ歳入組入又ハ歳入組入濟額ヲ控除シタル殘額）ニ超過スルモノアルトキハ其事由ヲ具シ直チニ之ヲ當該仕拂命令官ニ返付スヘシ

第六條　金庫ニ於テ帝國鐵道及同用品資金會計竝ニ韓國鐵道及同用品資金會計所屬出納官吏ヨリ雜部金拂込書ニ「振替」ノ押印アル仕拂命令ヲ添ヘ納付アリタルトキ又ハ歳入金振替拂込書ニ「振替」ノ押印アル仕拂請求書又ハ集合仕拂請求書（收證書ヲ添付スルモノトス）若クハ雜部金引出切符ヲ添ヘ納付アリタルトキハ仕拂命令、仕拂請求書、雜部金引出切符ニ對スル金額ヲ拂出シタル上直チニ指定ノ歳入金又ハ雜部保管金ニ收納シ集合仕拂請求書ニ對シテハ領收證書ヲ當該仕拂命令官ニ交付スヘシ

前項「振替」ノ押印アル仕拂命令、仕拂請求書及雜部金引出切符ニ對シテハ出納官吏ニ振換受拂ノ計算ヲ爲シ實際現金ノ拂渡ヲナスヘカラス

第七條　金庫ハ每年度ノ末內仕拂請求書、集合仕拂請求書ヲ要スヘキ裏書アル仕拂請求書、集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヒタル仕拂命令ニシテ翌年度五月三十一日迄ニ歳出金トシテ拂出ノ計算ヲ爲シ得サルモノハ歳出仕拂未濟繰越金トシテ繰越ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　金庫ハ大藏大臣ヨリ帝國鐵道會計法第十條ニ據ル借入金移替ノ命達アリタルトキハ國庫內移替ノ手續ヲ以テ現金ヲ拂出シ直チニ之ヲ指定ノ科目ヘ振換受入ノ計算ヲ爲スヘシ借入金返償ノ場合亦之ニ準ス

第九條　金庫ニ於テハ前條ノ借入金ハ帝國鐵道會計收益勘定ノ歳出仕拂元金ニ振換受入ヲ爲シ又其返償ノトキハ該仕拂元金ヨリ拂出スヘシ

第十條　金庫ニ於テ帝國鐵道及同用品資金會計竝ニ韓國鐵道及同用品資金會計ノ歳入歳出金ノ出納ヲ爲スニ付此規程ニ記載ナキ歳入歳出ニ關スル事項及計算整理竝ニ報告表提出期限等ノ條項ハ總テ金庫出納事務規程ノ例ニ依リ取扱フヘシ

第二章　帳簿及計算報告

第一款　中央金庫

第十一條　中央金庫ハ金庫出納事務規程ニ規定シタルモノノ外帝國鐵道及同用品資金會計ノ計算整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

第一　韓國鐵道資本勘定（韓國鐵道收益勘定）（韓國鐵道用品資金）收支金報告領整理簿

第二　帝國鐵道資本勘定（帝國鐵道收益勘定）（帝國鐵道用品資金）歳出支出簿

第三　帝國鐵道資本勘定歳出金各廳內譯簿

第四　帝國鐵道收益勘定（帝國鐵道用品資金）歳出仕拂元受高差引簿

第五　帝國鐵道資本勘定（帝國鐵道用品資金）歳入又ハ韓國鐵道資本勘定歳出竝ニ韓國鐵道收益勘定（韓國鐵道用品資金）歳出仕拂元金每ニ之ヲ設ケ本金庫ヲ區分シ當該本金庫ヨリ送付スル收支報告表ニ據リ其收支額ヲ登記シ置キ追テ每月出納計算書ヲ受ケメルトキ之ヲ整理スヘシ其書式第一號ノ如シ

第十二條　韓國鐵道資本勘定歳出金各廳內譯簿ハ各年度每ニ之ヲ設ケ各取扱廳及歳入徵收官ヲ區分シ各證憑書ニ據リ每日其歳入額ヲ登記スヘシ其書式第二號ノ如シ

第十三條　帝國鐵道資本勘定（帝國鐵道收益勘定）（帝國鐵道用品資金）歳入金各廳內譯簿ハ各年度每ニ之ヲ設ケ金庫及仕拂命令官ヲ區分シ各證憑書ニ據リ每日其歳入額ヲ登記スヘシ其書式第三號ノ如シ

第十四條　帝國鐵道資本勘定歳出金各廳內譯簿ハ各年度每ニ之ヲ設ケ金庫及仕拂命令官ヲ區分シ各證憑書ニ據リ每日其歳出額ヲ登記スヘシ其書式第三號ノ如シ

第十五條　帝國鐵道收益勘定(帝國鐵道用品資金)歲出仕拂元受高差引簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ金庫及仕拂命令官ヲ區分シ仕拂命令官ヨリ資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ仕拂元受金ニ組換ノ請求ヲ受ケタルトキ資本持越高又ハ歲入金ヲ仕拂元受金ニ組換ヲナシタルトキ歲入ヨリ組換額ヲ登記シ仕拂命令官ヨリ案內仕拂請求書、集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂請求書、集合仕拂請求書ヲ受領セル都度仕拂請求書受領濟額ヲ登記シ現金ヲ仕拂タルトキ各證憑書ニ據リ仕拂額ヲ登記スヘシ其書式ハ明治三十九年大藏省令第三十一號ニ據リ明治二十三年大藏省令第九號中第十七號書式ニ據ル

第十六條　帝國鐵道資本勘定(帝國鐵道收益勘定)(帝國鐵道用品資金)歲出支出簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ各仕拂命令官毎ニ各款項ヲ區分シ大藏大臣ヨリ令達セラレタル豫算額ヲ登記シ置キ追テ仕拂命令官ヨリ案內仕拂請求書、集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂請求書、集合仕拂請求書ヲ受領セル都度仕拂請求書受領濟額ヲ登記スヘシ其書式ハ明治三十九年大藏省令第三十一號ニ據リ明治二十三年大藏省令第九號中第十六號書式ニ據ル

第十七條　中央金庫ハ現金出納原簿ヘ左ノ科目ヲ設ケ帝國鐵道資本勘定(帝國鐵道收益勘定)(帝國鐵道用品資金)歲入金各廳內譯簿、帝國鐵道資本勘定歲出金各廳內譯簿、帝國鐵道收益勘定(帝國鐵道用品資金)歲出仕拂元受高差引簿ノ合計額ヲ毎日登記スヘシ

韓國鐵道及同用品資金會計ニ係ルモノハ韓國鐵道資本勘定(韓國鐵道收益勘定)(韓國鐵道用品資金)收支金報告額整理簿ニ據リ其收支額ヲ登記スヘシ

某年度帝國鐵道資本勘定歲入
某年度帝國鐵道資本勘定歲出
某年度韓國鐵道資本勘定歲入
某年度韓國鐵道資本勘定歲出

某年度帝國鐵道收益勘定歲入
某年度帝國鐵道收益勘定歲出仕拂元金
某年度韓國鐵道收益勘定歲入
某年度韓國鐵道收益勘定歲出仕拂元金
某年度帝國鐵道用品資金歲入
某年度帝國鐵道用品資金歲出仕拂元金
某年度韓國鐵道用品資金歲入
某年度韓國鐵道用品資金歲出仕拂元金

第十八條　中央金庫ハ現金出納原簿ニ據リ毎日金庫出納事務規程ノ收支金報告表ヘ帝國鐵道及同用品資金會計並ニ韓國鐵道及同用品資金會計ノ歲入歲出金及歲出仕拂元金ノ收支額ヲ揭ケ大藏省ヘ報告スヘシ

第十九條　中央金庫ハ帝國鐵道資本勘定(帝國鐵道收益勘定)(帝國鐵道用品資金)歲入金各廳內譯簿ニ據リ毎月第四號書式ノ帝國鐵道資本勘定(帝國鐵道收益勘定)(帝國鐵道用品資金)歲入金月計對照表ヲ調製シ當該歲入徵收官ヘ又帝國鐵道資本勘定歲出金各廳內譯簿、帝國鐵道收益勘定(帝國鐵道用品資金)歲出仕拂元受高差引簿ニ據リ毎月第五號書式ノ帝國鐵道資本勘定(帝國鐵道收益勘定)(帝國鐵道用品資金)歲出金月計對照表ヲ調製シ當該仕拂命令官ヘ送付スヘシ

前項歲出金月計對照表ハ當該官吏ノ證明ヲ受ケ毎月出納內譯書ニ添ヘ大藏省ヘ差出スヘシ

第二十條　中央金庫ハ帝國鐵道資本勘定(帝國鐵道收益勘定)(帝國鐵道用品資金)歲出支出簿及帝國鐵道收益勘定(帝國鐵道用品資金)歲出仕拂元受高差引簿ニ據リ毎月帝國鐵道資本勘定(帝國鐵道收益勘定)(帝國鐵道用品資金)歲出仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ當該仕拂命令官ニ差出シテ證明ヲ受ケ金庫出納役之ニ署名捺印シ毎月出納計算書ト共ニ大藏省ヘ差出スヘシ其書

式ハ明治三十九年大藏省令第三十一號ニ據リ明治二十三年大藏省令第九號中第七號書式ニ據ル

第二款　本金庫

第二十一條　在韓國本金庫ハ金庫出納事務規程ニ規定シタルモノノ外韓國鐵道及同用品資金會計ノ計算整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

第一　韓國鐵道資本勘定（韓國鐵道收益勘定）（韓國鐵道用品資金）歳出仕拂元受高差引簿

第二　韓國鐵道資本勘定歳出金各廳內譯簿

第三　韓國鐵道收益勘定（韓國鐵道用品資金）歳出支出簿

第四　韓國鐵道資本勘定（韓國鐵道收益勘定）（韓國鐵道用品資金）歳入金各廳內譯簿

第二十二條　前條ニ揭クル諸帳簿ノ設置登記ニ關スル手續ハ中央金庫ノ例ニ準ス

第二十三條　在韓國本金庫ハ現金出納原簿ヘ左ノ科目ヲ設ケ韓國鐵道資本勘定（韓國鐵道收益勘定）（韓國鐵道用品資金）歳出金各廳內譯簿、韓國鐵道收益勘定（韓國鐵道用品資金）歳出仕拂元受高差引簿ノ合計額ヲ每日登記スヘシ

某年度韓國鐵道資本勘定歳入
某年度韓國鐵道資本勘定歳出
某年度韓國鐵道收益勘定歳入
某年度韓國鐵道收益勘定歳出仕拂元金
某年度韓國鐵道用品資金歳入
某年度韓國鐵道用品資金歳出仕拂元金

第二十四條　在韓國本金庫ハ現金出納原簿ニ據リ每五、十ノ日ニ金庫出納事務規程ノ收支金報告表ヘ此規程ニ據ル歳入歳出金及歳出仕拂元金ノ收支額ヲ揭ケ報告スヘシ

第二十五條　在韓國本金庫ニ於テハ韓國鐵道資本勘定（韓國鐵道收益勘定）（韓國鐵道用品資金）歳入歳出金月計對照表及仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製スヘシ但其手續ハ中央金庫ノ例ニ準シ當該官吏ノ證明濟月計對照表ハ每月出納內譯書、仕拂請求書受領濟額報告書ハ每月出納計算書ト共ニ中央金庫ヘ送付スヘシ

第三章　決算整理

第二十六條　中央金庫ハ金庫出納事務規程ノ每年度出納計算書及每月出納內譯書ヘ帝國鐵道及同用品資金會計竝ニ韓國鐵道及同用品資金會計ノ歳入歳出金及歳出仕拂元金ノ受拂額及其內譯額ヲ揭記スヘシ

每年六月ノ出納內譯書ニハ前年度所屬歳入歳出出納明細書ヲ添付スヘシ

第二十七條　中央金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル每月出納計算書中受拂ノ部ヘ一箇月中ニ出納シタル帝國鐵道及同用品資金會計ノ歳入歳出金及歳出仕拂元金ノ受拂額ヲ揭記シ又內譯ノ部歳入ノ區ノ次ニ「某年度帝國鐵道收益勘定歳入」「某年度帝國鐵道用品資金歳入」ノ區又歳出ノ區ノ次ニ「某年度帝國鐵道資本勘定歳出」「某年度帝國鐵道收益勘定歳出仕拂元金」「某年度帝國鐵道用品資金歳出仕拂元金」ノ區ヲ設ケ各其內譯額ヲ揭記スヘシ其書式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十八條　在韓國本金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル每月出納內譯書及每月出納計算書ヘ中央金庫ノ例ニ準シ韓國鐵道及同用品資金會計ノ歳入歳出金及歳出仕拂元金ノ各受拂額及其內譯額ヲ揭記スヘシ

每年六月ノ出納內譯書ニハ前年度所屬歳入歳出出納明細書ヲ添付スヘシ

附　則

第二十九條　明治二十七年三月大藏省訓令第二十一號官設鐵道用品資金金庫出納取扱方同二十八年一月大藏省訓令第二號官設鐵道用品資金、鎭守府造船材料資金歳入歳出ノ出納取扱方及同三十九年六月大藏省訓令第三十號帝國鐵道及帝國鐵道用品資金歳入歳出ノ出納取扱方及同三十九年六月大藏省訓令第三十一號韓國鐵道及同用品資金歳入歳出ノ出納取扱方ハ此規程施行ノ日ヨリ廢止ス

「甲式書號一第」

某年度韓國鐵道資本勘定歲入

又ハ

某年度韓國鐵道收益勘定歲入

又ハ

某年度韓國鐵道用品資金歲入

韓國鐵道資本勘定(韓國鐵道收益勘定 韓國鐵道用品資金)

簿理整額告報金支收

(各書式中「」印ハ朱書ナリ)

中央金庫

何地本金庫

年月日		摘要	收支金報告年月日		每月出納計算書年月	歲入額			每月出納計算書整理額			仕拂元金へ組換額			每月出納計算書整理額		
						圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何ク		何	何ク		0						0					
何	何ク				何年何月ク				0						0		

「備考
某年度韓國鐵道資本勘定歲入收支金報告額整理簿ニ在テハ本書式中「仕拂元金へ組換額」及其次位ニアル「每月出納計算書整理額」ノ兩欄ヲ要セス」

明治四十年六月　訓令　大藏省第三十三號　帝國鐵道及同用品資金會計並ニ韓國鐵道及同用品資金會計金庫出納事務規程

「乙式書號一第」

某年度韓國鐵道資本勘定歲出

又ハ

某年度韓國鐵道收益勘定歲出仕拂元金

又ハ

某年度韓國鐵道用品資金歲出仕拂元金

韓國鐵道資本勘定（韓國鐵道收益勘定 韓國鐵道用品資金）收支金報告額整理簿

中央金庫

何地本金庫

年月日		摘要	收支金報告年月日		每月出納計算年月日	仕拂元受高			每月出納計算書整理額			支出額			每月出納計算書整理額			仕拂元受高ト支出額トノ差		
						圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何ク		何	何ク		0						0						0		
何	何ク				何年何月ク				0						0					

「備考
某年度韓國鐵道資本勘定歲出收支金報告額整理簿ニ在テハ本書式中「仕拂元受高」及其次位ニ在ル「每月出納計算書整理額」並ニ「仕拂元受高ト支出額トノ差」ノ三欄ヲ要セス」

「第二號書式」

某　年　度

簿譯內廳各金入歲（定勘益收道鐵國帝 金資品用道鐵國帝）定勘本資道鐵國帝

中　央　金　庫

何廳（取扱廳）　歲入徵收官官氏名

年月日		摘要	歲入 圓	歲入 錢	歲入 厘	累計 圓	累計 錢	累計 厘
何	何「ク」	「々何由事拂正更」	0			0		
		何月分合計	0					
		「同上更正拂合計」	0					
		收合計	0					

「第三號書式」

某　年　度

帝國鐵道資本勘定歲出金各廳內譯

中　央　金　庫

中央金庫　　名氏官官令命拂仕　　某廳主管

年月日		摘要	出歲			計累		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何		0			0		
	何		0			0		
		何月分合計	0					

「甲式書號五第」

某年度帝國鐵道資本勘定歲出金　第何號

明治何年何月中月計對照表

摘要	金額	備考
某廳主管	圓 0 錢 厘	

書面之通ニ付證明有之度證書何枚添付候也

明治何年何月何日

中央金庫「印」

仕拂命令官官氏名宛

證明ス

明治何年何月何日

仕拂命令官官氏名「印」

「式書號四第」

某年度帝國鐵道資本勘定（帝國鐵道收益勘定 帝國鐵道用品資金）歲入金

第何號　明治何年何月中月計對照表

廳名	金額	備考
何廳（取扱廳）	圓 0 錢 厘	

書面之通相違無之候也

明治何年何月何日

中央金庫「印」

歲入徵收官官氏名宛

「第五號書式乙」

某年度帝國鐵道收益勘定(帝國鐵道用品資金)歳出金
明治何年何月中月計對照表　第何號

摘要	仕拂元受高	仕拂額	備考
	圓 錢 厘	圓 錢 厘	
資本持越額	0		
歳入ヨリ組換額	0		
仕拂額		0	
翌年度ヘ繰越		0	
歳出仕拂未濟繰越金ヘ繰越		0	
某年度歳入(某年度帝國鐵道收益勘定歳入)ヘ納付		0	
合計	0	0	

書面之通ニ付證明有之度證憑書何枚添付候也

明治何年何月何日

中央金庫 「印」

仕拂命令官官氏名宛

證明ス

明治何年何月何日

仕拂命令官官氏名 「印」

○大藏省訓令第三十四號　　金庫出納役

明治三十五年四月大藏省訓令第二十號臺灣官設鐵道用品資金歳入歳出金出納取扱方ヲ左ノ通リ改正シ同四十年三月大藏省訓令第十六號韓國森林特別會計金庫出納事務規程中「作業及鐵道會計金庫出納事務規程」トアルヲ「作業會計竝ニ海軍工廠資金會計金庫出納事務規程」ト改ム

臺灣官設鐵道用品資金會計規則ニ據ル臺灣官設鐵道用品資金歳入歳出ノ出納ハ明治三十年三月大藏省訓令第十號臺灣總督府特別會計金庫出納事務規程及明治四十年三月大藏省訓令第三十二號作業會計竝ニ海軍工廠資金會計金庫出納事務規程ニ準據シ現金出納原簿ヘ「某年度臺灣官設鐵道用品資金歳入」「某年度臺灣官設鐵道用品資金歳出仕拂元金」ノ科目ヲ設ケテ整理シ諸帳簿計算報告及決算整理方等ハ總テ各別ニ區分スヘシ

明治四十年六月二十九日　　大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○陸軍省訓令丙第十三號　　陸軍一般

明治四十年度當省所管歳入歳出科目表中ヘ左記ノ通増設ス

明治四十年六月十一日　　陸軍大臣寺内正毅

歳入臨時部

款	項	目	節
官有物拂下代	營造物拂下代ノ次ニ		
	△船舶拂下代		
		△船舶拂下代	

△印増設

歳出經常部

款	項	目	節
軍事費			
	俸給及諸給	不位ニ	
	△	賞與	
	修繕費		
	△	東京灣要塞防禦營造物修繕	
	△	藝豫要塞防禦營造物修繕	
	△	舞鶴要塞防禦營造物修繕	
	△	下關要塞防禦營造物修繕	
	△	佐世保要塞防禦營造物修繕	
	△	基隆要塞防禦營造物修繕	
	△	函館要塞地帶標石及境界標補修	
	△	要塞備附船舶修繕	

○陸軍省訓令丙第十四號

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中ヘ左記ノ通增設ス

明治四十年六月十八日

歲出經常部

陸軍一般

陸軍大臣寺內正毅

△印增設

款	項	目	節
軍事費			
	修繕費	不位ニ	
	△	滿洲第一旅團司令部用諸土地建築模樣	
	△	臺北書院街陸軍宿舍移轉模樣	

○陸軍省訓令丙第十五號

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通增設ス

明治四十年六月二十日

歲出經常部

陸軍一般

陸軍大臣寺內正毅

△印增設

款	項	目	節
軍事費			
	修繕費	不位ニ	
	△	步兵第十九聯隊木柵修繕	

○陸軍省訓令丙第十六號

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中ヘ左記ノ通增設ス

明治四十年六月二十六日

歲出臨時部

陸軍一般

陸軍大臣寺內正毅

△印增設

款	項	目	節
臨時軍事費			
	臨時軍事費	本位ニ	
	△召集諸費		

○農商務省訓令第十五號

明治三十九年訓令第十七號其局處務規程第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八條ノ二　局長ハ事務處理ノ爲メ農商務大臣ノ認可ヲ經テ處務細則ヲ設クルコトヲ得

明治四十年六月八日　農商務大臣松岡康毅

○農商務省訓令第十六號

糖業改良事務局東京出張所處務規程左ノ通相定ム

明治四十年六月八日　農商務大臣松岡康毅

糖業改良事務局東京出張所處務規程

第一條　糖業改良事務局東京出張所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　內外國ニ於ケル糖業ニ關スル學術上ノ調査事項

二　內外國ニ於ケル糖業經濟ニ關スル調査事項

三　農商務大臣ヨリ諮問セラレタル糖業ニ關スル調査ニシテ至急答申ヲ要スル事項

四　本局ニ於テ使用スル物品ニシテ東京若ハ外國ニ注文スル器具器械ノ購入ニ關スル事項

第二條　糖業改良事務局東京出張所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　所長ハ糖業改良事務局長ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理シ凡テ其ノ責ニ任ス

第一條第四項ニ關シテハ直ニ農商務大臣ノ決裁ヲ受クヘシ

第四條　所長ハ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第五條　所長ハ所員ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第六條　所長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢以下ノ傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第七條　所長事故アルトキハ次席ノ所員之ヲ代理ス

第八條　所長ハ事務處理ノ爲糖業改良事務局長ノ認可ヲ經テ處務細則ヲ設クルコトヲ得

○農商務省訓令第十七號

糖業改良事務局大島出張所處務規程左ノ通相定ム

明治四十年六月八日　糖業改良事務局大島出張所

糖業改良事務局大島出張所處務規程

第一條　糖業改良事務局大島出張所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　甘蔗ノ耕種試驗ニ關スル事項

二　砂糖ノ製造試驗ニ關スル事項

三　講習講話ニ關スル事項

四　品評會ニ關スル事項

五　種苗ノ配布ニ關スル事項

六　調査及質問應答ニ關スル事項

第二條　糖業改良事務局大島出張所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　所長ハ糖業改良事務局長ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理シ凡テ其ノ責ニ任ス

第四條　所長ハ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第五條　所長ハ所員ノ歸省看護等參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
第六條　所長ハ月俸拾五圓又ハ日給五拾錢以下ノ傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
第七條　所長事故アルトキハ次席ノ所員之ヲ代理ス
第八條　所長ハ事務處理ノ爲糖業改良事務局長ノ認可ヲ經テ處務細則ヲ設クルコトヲ得

○內務省訓令第十六號

明治三十二年內務省訓令第二十六號船舶檢疫手續ハ之ヲ廢止ス

明治四十年七月一日

○內務省訓令第十七號

樺太廳職員旅費規則中左ノ通改正ス

明治四十年七月十八日

內務大臣原敬

第六條ノ二　樺太廳長官ハ旅費ノ定額ヲ減少シ若ハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

樺太廳

○內務省訓令第十八號

明治二十四年內務省訓令第十四號第一條中左ノ通改正ス

北海道廳　神奈川縣　兵庫縣　長崎縣
福岡縣　佐賀縣　鹿兒島縣　沖繩縣

第二號ヲ削除シ第三號ヲ第二號トス

第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三　直接公用ニ供シタル官有土地一町歩以下ヲ相當ノ料金ヲ徵シ五箇年以內ノ期限ヲ付シ使用ヲ許ス事

內務大臣原敬

北海道廳　府縣

第五號中敷地ノ下ニ「竝公共團體ニ於テ費用ヲ負擔セサル堤塘道路竝木敷」ノ二十三字ヲ加フ

第十一號ヲ左ノ如ク改ム

十一　直接公用ニ供スル施設ヲ爲ス爲メ其ノ敷地ニ用ユル官有土地水面ト民有地ト交換セントスル場合又ハ民有地ニ堤塘道路竝木敷河川溝渠溜池用惡水路等ヲ開設變更シ其ノ敷地ト舊同種類ノ官有地ト交換セントスル場合ニ於テ市街ニ在テハ一區域五百坪以下村落ニ在テハ一區域一町歩以下ヲ處分スルコト

但明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地區劃改良ノ爲メニ交換ヲ要スルモノハ本文坪

數ノ制限ニ依ルヲ要セス

第十七號ノ次ニ左ノ一號ヲ追加シ第十八號ヲ第十九號トシ同號中「前各項」トアルヲ「前各號」ニ改ム

十八　前各號ノ範圍外ト雖モ官有土地水面ノ使用、貸付、賣拂、讓與又ハ埋立ニ關シ公益上障害又ハ其ノ他ノ理由ニ基キ不許可ノ處分ヲ爲スコト

明治四十年七月二十四日　　內務大臣原敬

〔參照〕

內務省訓令第十四號（明治二十四年七月二十四日）抄錄

第一條　官有土地水面ニ關スル處分ノ內左ニ揭クルモノハ之ヲ委任ス但處分ノ後內務報告例ニ依リ報告スヘシ

二　北海道ニ於テ警察署郡區役所戶長役場及官立學校病院等ノ敷地ニ官有土地ヲ充用スル事

五　溜池、用惡水路、溝渠、河川、湖沼池澤ノ水面及其敷地ヲ相當ノ料金ヲ徵シ使用ヲ許ス事

十一　直接公用ニ供スル場合ニ限リ市街ニ在テハ五百坪以下村落ニ在テハ一町步以下ノ官有土地水面ヲ交換スル事

但明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地區劃改良ノ爲ニ交換ヲ要スルモノハ本文坪數ノ制限ニ依ルヲ要セス

○大藏省訓令第三十五號

明治三十八年五月大藏省訓令第四十三號鹽務局事務取扱手續中第十七號書式ヲ左ノ通改正ス

明治四十年七月二十二日　　鹽務局

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第十七號書式（輪廓縱六寸橫四寸五分）

鹽再鑑定決定書

一製造人　何某

一製造年月日　明治何年何月何日

一分析試驗ノ結果ニ依ル鹽百分中ノ含有量

鹽化曹達　何程

水分　何程

夾雜物　何程

一鹽專賣法施行細則第十七條ニ依ル鑑定成績

鹽化曹達　何程

右ニ依リ何等鹽ト決定ス

明治何年何月何日

何鹽務局（出張所）長氏名㊞

○陸軍省訓令丙第十七號

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中ヘ左記ノ通增設ス

明治四十年七月六日　　陸軍一般

歲出經常部　　陸軍大臣寺內正毅

△印增設

款	項	目	節
軍事費			
	修繕費	次ニ	
		△名古屋陸軍北練兵場修繕	
		△東京灣要塞地帶標杭及境界標補修	
		△下關要塞地帶標杭及境界標補修	
		△對馬要塞地帶標杭及境界標補修	
		△金澤衛戍病院消毒所其他移轉模樣替	
		△埔里社分遣隊兵舍屋根模樣替	

歳出臨時部

款	項	目	節
營繕費			
	新營費	不位ニ	
	△癈兵院新營		
營繕及初度調辨費	不位ニ		
	△臺灣兵營廳舍營繕及初度調辨費		
	△各兵營新營及模樣替		
	△器具機械及圖書費		
	△陣營具備附費		
	△諸官衙新營及模樣替		
不位ニ災害費			
	△糧草兵第八大隊本部及兵舍其他火災復舊費		
	△糧草兵第八大隊本部及兵舍其他火災復舊費		

陸軍一般

○陸軍省訓令丙第十八號

明治四十年度當省所管歳入歳出科目表中ヘ左記ノ通增設ス

明治四十年七月十三日

陸軍大臣寺内正毅

歳出臨時部

款	項	目	節
砲臺建築費			
	基隆砲臺建築費	不位ニ	
	△地所及建物買收費		

△印增設

東京砲兵工廠作業

歳入

款	項	目	節
東京砲兵工廠作業收入			
	雜收入	不位ニ	
	△雜收		

陸軍一般

○陸軍省訓令丙第十九號

明治四十年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通增設ス

明治四十年七月二十日

陸軍大臣寺内正毅

歳入臨時部

款	項	目	節
雜收入			

△印增設

臨時軍事費所屬收入

歲出臨時部					
款	項	目	節		
營繕費				新營繕費	
				陸軍（文位ニ）歩兵第十四聯隊給水鐵管其他改修費	

歲入	
運輸收入（文位ニ）	

○農商務省訓令第十八號

林務報告例左ノ通定ム

明治四十年七月十一日

農商務大臣松岡康毅

林務報告例

第一條　林務報告例ハ大林區署長ニ於テ法令ヲ執行シ又ハ其ノ職權内ニ於テ處分シタル事項竝管内ノ狀況等ニ付緩急ニ從ヒ林務ニ關スル事項ヲ報告スヘキ順序ヲ示スモノトス

第二條　報告ヲ分チテ卽報、月報、季報、半年報、年報ノ五種トス

第三條　卽報ハ報告スヘキ事項發生ノ都度、月報ハ每月、季報ハ每季、半年報ハ每半年、年報ハ每年一回本例ノ定ムル期限内ニ報告スルモノトス

第四條　報告ハ直接使命ノ外總テ郵便ニ付スヘシ但シ事ノ重大ニシテ緊急ヲ要スルモノハ卽時電報ニテ報告ヲナシタル後更ニ所定ノ手續ヲナスヘシ

第五條　報告書類中別紙雛形報告用紙ニ示セル記載例ニ適合スルモノニ付テハ該用紙ヲ用フヘシ但シ會計ニ關スル報告ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第六條　報告書ハ添書ヲ要セス其ノ記載方ハ一事件又ハ一表每ニ頁ヲ改メ末尾ニ年月日宛名ヲ記シ長官署名捺印スヘシ

第七條　報告スヘキ事項ニシテ印刷シタルモノハ更ニ報告用紙ニ謄寫スルニ及ハス用紙大ノ無罫美濃紙ニ印刷又ハ貼附シテ進達スヘシ

第八條　圖面ハ成ルヘク報告用紙ト同形ノ紙面ニ調製スルヲ要ス其ノ縮少シ得ヘキモノハ伸縮調製スルモ妨ケナシ但シ編綴ニ便センカ爲四隅ニ餘白ヲ存スヘシ

第九條　報告スヘキ事項ニシテ前報告ト比較シ著シキ變更增減アルモノハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第十條　面積、材積、數量、價額等ハ總テ單位ニ「●」ヲ附シ其ノ肩ニ單位呼稱ヲ記載スヘシ

第十一條　將來新タニ發スル命令中ニ報告ヲ要スヘキ旨ヲ規定シタルトキハ本例目中ノ相當種類中ニ追加シタルモノト看做ス

第十二條　本例目ニ掲載セル事項ニ關シ將來其ノ基ク規定ノ改正セラレタル場合ハ其ノ效力延テ本例ニ及フモノトス

第十三條　本例目ニ掲ケサル事項ニシテ事ノ異例ニ屬セルモノ又ハ重要ト認ムヘキ事故發生シタルトキハ速ニ報告スヘシ

（別紙）

報告用紙雛形（美濃十三行黑罫紙）

何報

右及報告候也

明治　年　月　日

長官　官氏名　印

農商務大臣宛

林務報告例目

即報

番號	件名	報告ノ基ク法規	發送期限	樣式番號
第一	大林區署長事務受渡結了報告	二六年七月戊第八七號達		
第二	徵收手續脫落ノ結果政府ニ損失ヲ來シタル顚末報告	三三年三月訓令第一一號大林區署會計事務章程		
第三	經費過年度支出報告	同上		
第四	物品亡失毀損ニ係ル辨償金額十圓未滿ノモノ處分濟報告	同上		
第五	物品出納檢査成績報告	同上		
第六	出納官吏帳簿金櫃檢査報告	同上		
第七	出納官吏保管金員紛失報告	同上		

第八	大林區署域及署員管内調査報告	訓令第二一號三九年三月達第一號	十日以内		
第九	町村引下處分報告	三三年四月林殺第七〇號通牒			第一號
第一〇	財產取扱主任報告	三四年四月令殺第二一一號通			
第一一	沿林第三部事業成績報告	三三年一二月林殺第一八四號通牒			
第一二	擔保金引繼報告	訓三六年九月林殺第一六七三號内務省令第一號			
第一三	森林收入未納金整理報告	同　上			
第一四	不要存置林野分調査後始末更訂報告	三六年一〇月林殺第一八〇號通牒			第二號
第一五	森林主事任用試驗成績報告	三六年一二月省令第一三號森林主事特別任用規則			
第一六	官行造林事務現在調報告	三七年山殺第一九九號通牒			第三號
第一七	施業方針變更ニ關スル決定令ノ例規ニ依リ日報告	三七年九月山殺第四〇七號			
第一八	施業案編成完了報告	三九年四月林殺第九一號國有林施業案編成調査手續			
第一九	施業案編成著手國有林名報告	同　上			
第二〇	施業案編成ニ關スル外業着手或ハ終了月日報告	同　上			
第二一	施業案編成ニ關スル施業方針報告	同　上			
第二二	施業案變更ニ關スル成績報告	同　上			
第二三	施業案變更ノ必要ヲ認メタル場合ニ關スル報告	同　上			
第二四	山林國技手俸給支給區分報告	三九年四月林庶第一〇七號通牒			
第二五	規則ノ制定改廢報告	三九年五月内閣第一四五號			
第二六	小林區署員二名以上配置ノ場合報告	三九年五月林庶第一四四號			
第二七	小林區署長管内巡視回數減少報告	三九年八月訓第一四號訓令			
第二八	地租ヲ納メサル假定地ニ關スル訴訟ニ於テ國有林野下戻ヲ認メタル判決ノ抄本下付ヲ受ケタル場合報告	三九年九月林殺第八五二號通牒			
第二九	托型材積調製ニ關スル規則ニ依ル事務ノ一部委任ニ依リ工定實施ノ場合報告	三九年訓第三四號			
第三〇	製材檢工定實施ニ關スル細則制定報告	同　上			
第三一	官用地使用許可報告	三九年一〇月林殺第二九四號通牒			
第三二	小林區署長ヲシテ假定案ヲ實行セシメタル場合報告	三九年一二月訓令第四一號			
第三三	追加假定案報告	同　上			
第三四	假定案ノ變更始末報告	同　上			
第三五	一部事業ノ林野ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ造林ノ不結果ニ依リ造林ヲ中止シタル場合報告	同　上			
第三六	年度區分假定實施報告	同　上			
第三七	國有林野又ハ產物管理ニ關スル事故報告	三九年一二月林殺第三九二號訓令	管理署外部ニ關スル事故ハ管理署内ニ於テ調製シ報告スルコト		第四號
第三八	判任官以下大林區署員及判任官小林區署員ノ管外旅行報告	四〇年一月訓令第一號			
第三九	判任官小林區署長ノ合現狀報告	同　上			
第四〇	同一町村内ニ位置ヲ異ニスル小林區署及保護區ノ管轄ニ於ケル小林區署長ノ合現狀報告	同　上			

第四二	一ノ森員ニ係ル一森全千圓以上ノ職工人夫	四〇年一月訓令第三號		
第四三	一件ノ森員全千圓以上ノ工作又ハ物品売渡物	同　上		
第四四	物一森金五千圓以上ノ物件売渡又ハ仲買	同　上		
第四五	職工人夫給料調査報告	同　上		
第四六	物件搬出期日ニ関スル報告	第四〇年三月内訓令第六二號		
第四七	保護區内倉庫報告			
第四八	森員ノ月給増減其他人事上異動報告			

月報

番號	件名	報告ノ基タル法規	發送期限	報告番號
第一	大林區署定行文林區分廳吉件報告	三九年二月訓令甲第七號	翌月五日	第五號
第二	事業認定案不實行報告	三〇年一一月訓令第一〇號林野第五六二號三通牒年三六年月通牒第一一二號	翌月十五日	第六號
第三	不要存置林野區分調査囘報決定報告	行三二年林野第四四分川調訓令第二二號		第七號
第四	出納官吏異動報告	三三年三月訓令第一一號大林區署會計川事務手續	翌月五日	
第五	出納官吏身元保證金納付書報告	同　上	同　上	
第六	出納官吏身元保證金増減書報告	同　上	同　上	
第七	職人採用報告	同　上	翌月十五日	
第八	經費支拂報告	同　上	同　上	
第九	經費繰用報告	同　上	同　上	
第一〇	特別處分ニ關スル文書處分廳吉件報告	三三年三月訓令第七九六號通牒	翌月五日	第八號
第一一	官行斫伐事業起廢報告	三三五年一一月林野第一五三號通牒		第九號
第一二	不要存置林野區分調査囘林野處置報告	三六年一〇月林野第一八〇號通牒		第一〇號
第一三	雜林外主産物賣分報告	三七年一〇月林野第一一五號通牒	翌月十日	第一一號
第一四	不要存置林野區分報告	三七年一〇月林野第四三三號通牒	同　上	第一二號
第一五	苗木賣分報告	三七年一一月山林第五二九號		第一三號
第一六	工藝資料採取報告	三八年一一月山林第八一四號通牒		第一四號
第一七	木材需用報告	三九年一〇月山林第九五號囘答	翌月三日	第一五號
第一八	國有林野產物處分狀況報告	四〇年一月林野第八號内訓	翌月十日	
第一九	主副產物拂下代金收入調定額報告	四〇年三月林野第三四號通牒	同　上	第一六號
第二〇	製品處分狀況報告	第四〇年三月内訓林野第六二號國有林野產物處分手續	同　上	
第二一	製材所製品現在囘報告		翌月五日	第一七號
第二二	林產物現在囘報告		同　上	第一八號
第二三	主産物賣分報告		同　上	第一九號

季報

番號	件名	報告ノ基ク法規	發送期限	樣式番號
第一	不要存置林拂下分調査功程報告	明三三年訓令第二二號	四、七、十、一 月末日	第二〇號
第二	無願開墾樹地處分調査功程報告	明三九年訓令第一〇〇號	同　上	樣式第二〇號準用
第三	無願開墾樹地處分調査及處分成績報告	同上	同　上	第二一號
第四	國有林野貸渡契約處分報告	明三九年一一月林報第三三號	四、七、十、一 月末日	第二二號
第五	製材所現業員勤勉手當公與報告	明三九年一〇月林報第三六四號	三、六、九、十 月末日	第二三號
第六	職員現在表		三、六、九、十 月七日	第二四號

半年報

番號	件名	報告ノ基ク法規	發送期限	樣式番號
第一	造林豫定案大實行報告	明三六年一一月山林報第六七〇號通牒	四、十月末日	第二五號
第二	成林木造材運材事業竝現業員勤勉手當給與報告	明三九年一二月林報第三六四號	三、九月	第二六號

年報

番號	件名	報告ノ基ク法規	發送期限	樣式番號
第一	撫育伐採止及植栽成業報告	三〇年六月內訓令第一〇四號官林拂下處分手續	四四年度	
第二	繰越事業報告	明三三年三月山林報第四六號通牒	同　上	第二七號
第三	明治三十九年度迄ノ繰越事業ニ對スル決算及翌年度ヘ繰越金額計算報告	明三三年三月訓令第一一號大林區署會計事務手程	四四年度 七月十五日	
第四	收入決算報告	同　上	四四年度 七月末日	
第五	經費節減使用報告	同　上	四四年度 七月十五日	
第六	經費繰越計算書	同　上	四四年度 七月十日	
第七	臨時會支出計算書	同　上	四四年度 六月十五日	
第八	經費決算報告	同　上	四四年度 六月三十日	
第九	物品出納保管成績報告	同　上	四五年度 五月末日	
第一〇	境界査定成績表	明三三年三月林報第三四號通牒	四四年度 三月十日	第二八號
第一一	境界査定成績總括表	同　上	同　上	第二九號
第一二	境界査定成績表附圖經費內譯表	同　上	同　上	第三〇號
第一三	境界實測功程表	同　上	同　上	第三一號
第一四	境界實測成績表	同　上	同　上	第三二號
第一五	境界實測成績圖所用表	同　上	同　上	第三三號
第一六	國有林施業編成成績表	明三三年四月訓令第一四號計算手續	四四年度 六月三十日	第三四號
第一七	國有林施業案編成成績總括表	同　上	同　上	第三五號

第二八	國有林野森林編成成績表附錄認定内譯	同　上	同　上	第三六號
第二九	造林成績表	三三年八月訓令第三〇號	六四年度十月三日	第三七號
第三〇	官用地官有森屋敷沿物取扱報告	三四年七月勅令第二一一號官有財産處分法施行規程	四四年度十月三日	
第三一	財産統報告	同　上	四年每十月三年十日	
第三二	林産物品出納報告	林三五年一一月訓令第二三號林産物品會計規程	六四年度十月五日	
第三三	收入追加金現在高報告	第三六年九月内訓林産物賣拂手續第一六三條	四四年度十月三日	
第三四	國有林野經營區分濟報告	號三造年一〇月林務第四三四	同　上	第三八號
第三五	苗木相互讓與報告	號三造六年一〇月山務第六二七	六月三十日	第三九號
第三六	小林區署及保護區區域竝國有林野面積報告	通三八年一月林務第五九六號	五月一日	第四〇號
第三七	苗木造出現計表	通三八年三月山務第一八一號	四四年度月七日	
第三八	不要存置國有林野處分成績表	造三八年三月林務第一一一號	四四年度月三日	第四一號
第三九	不要存置國有林野處分報告（依據告訓）	造三八年六月林務第一八五號	七四年度月三十一日	第四二號
第四〇	施業案編成箇所選定報告	通三八年七月林務第二三三號	十二月末日	第四三號
第四一	經營造林竣計報告	三九年五月訓令第二〇號	六四年度月十日	第六三七號ノ六
第四二	國有林野境界標調査報告	三九年五月訓令第二三條國有林野境界標調査規程	三四年度月末日	第四四號
第四三	小林區署收入及經費報告	通三九年五月山務第四八五號	七月三十一日	第四五號乙

第四四	國有林野境界變動報告	九三九年一二月内訓林務第三號	五月當十一日	第四六號
第四五	職員調報告（月勅任以上ハ毎日現在）		五月十五日	第四七號
第四六	同　上（月末計ハ毎日現在）	號三六年一月林庶第一八號通	一四年度月三十一日	第四八號
第四七	林區署造林官出張調報告		四四年度月十五日	第四九號
第四八	職定案事業繰越報告	三九年一二月訓令第四一號	同　上	
第四九	計報告ニ材積及主要副産物ノ生産高竝	通三九年八月林務第二九三號	二四年度月末日	第五〇號
第五〇	森林鉄竹ニ關スル報告	同　上	同　上	
第五一	木材其他林産物輸出入高報告	同　上	同　上	第五一號

第一號

報創

明治何年度何主産物處分繰定案單假引下處分報告　大林區署名

既小名林	號數定入繰	小字名	樹種	單價	假定	單引	假下	處分實行數額				假引下事由
								面積	材積	本數	總價格	
				圓		圓		町	尺ノ	圓	圓	
計												

第一一號

報創

何明治何年分 不要存置林野處分調査總括表更訂報告　大林區署名

調査總括表更訂ノ年月及總括表ニ關スル番號	所在			面積	地租		價格		計	本更由訂
					地租	地價	高	價格		
				10,000 町	1,300,300 圓	1,500 圓	1,500,000 圓	1,500 圓	1,500 圓	
				10,000	1,300,000	1,300	1,500,000	1,000	1,300	
原野										

備考

一　木表ハ經何ノ上認可ヲ受ケタルモノニ對シ價格ノ增減ヲ爲シタル場合ニ於テ（同區內ノ數箇所ニ亘リ增減ヲ爲シタルモノアルトキハ總テ之ヲ列記スルヲ要ス）箇所每ニ報告スルモノトス故ニ數箇所アルトキハ總テ之ヲ列記スルヲ要ス

二　實測面積以下ノ端ニハ原初認可ヲ經タル分ヲ朱線中右方ニ訂正ノ分ヲ左方ニ記シ減ハ赤筆スルモノトス

第一一號

報創

宮行事業林產物現在調報告　大林區署名

現在地	原產地	年度採	現在								摘要
			造種	種目	員	寸法	本數	材積	單價	金額	
何郡何村	何小林區				1 圓	五六口徑 寸末圓	圓'000	11'000	‥‥	‥‥	
何士	何國有林	36	スギ	丸太	1 圓	1 尺末圓	圓'000	1'000	‥‥	‥‥	
計											

備考

一　木表ハ同一現在地ニ數種ノ製材ナルトキハ之ヲ列記シ然ル後他ノ現在地現存ノ分ヲ記スヘシ

二　寸法欄ハ末口徑寸面ヲ記スルモノニシテ五寸尊ニ區分記スヘシ

三　長サ寸法ノ區分シ難キ場合ハ何尺乃至何尺又ハ何寸乃至何寸ヲ以テ記シ林況ニ對スル大體ノ割合ヲ摘要欄ニ記スヘシ（例令長サ十四尺末口二尺末滿ノモノハ大體乃至九割位ノ如シ）

四　金額ハ販賣實際見込ノ金額トス

五　摘要欄ニハ現在地最近ノ港灣停車場名及其ノ距離或其ノ林ノ運搬取扱ヲ爲ス農事等ヲ記スヘシ

第四號

報創

國有林野（產物）（製品）被害報告　大林區署名

所在					國有林野（滿葉）面積	被害			備考
國	郡（市）	町（村）	大字	字		種類	面積	產物石數	
					町		町		

計													

備考

一　国有林野面積ノ調ニハ各該林野ノ全面積ヲ記載スヘシ
但シ造林地ニ係ル場合ハ造林面積ヲ記載スヘシ

二　森物ノ被害ニ在リテハ立木竹其ノ他林野ニ附着セルモノニ係ル場合ニ於テハ面積ヲ記載スヘシ

三　林野ニ附帯セル設備施設ノ場合ニ於テハ開墾ハ伐採之ヲ開墾スヘシ今林地ノ場合ニ於テハ何ヲ植ヱ何ヲ播ク

報告

林道被害報告

大林區署名

所在	里程及里程	被害 物件	被害 種類	被害 数量	被害 価額	備考
自(村)何郡何町大字何字何町至(村)何郡何町大字何字何町	………	橋梁	流失	何回	………	使用ニ適セス………
	………	石垣	崩壊	………	………	………
		………	………	………	………	
		………	………	………	………	
		………	………	………	………	
計						

第五號

報月

何明治何年分何月受付造林及拵成分済否伐報告

大林區署名

年月	前月ヨリ繰越	本月受付	計	済分数	未済分数
	一〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	一〇〇

第六號

報月

主産物處分採定案不實行箇所報告

大林區署名

匠小名林	號即區入定番案	或小林小字班	樹種	八全内或	材積	價格	不實行事由
何	1			全	尺		再公度ニ付キ本年度内ニ於テ伐採ノ見込ナキニ因リ之ヲ繰越ス
〃	2			内	〃		需要僅少ノ結果伐採ナキニ由ル
〃	8			全	尺		必特設ノ見込ノ出分ノ地方不作ノ由結果ニ因ル
〃	4			全	〃		区内不実行ノ外ニ特設ノ見込ナキニ由ル
計							
何	1			全			何々
合計							

第七號

報月

何明治分何年不要存置林野處分調査價格決定報告　大林區署名

區所數	官有地面積	土地價格	樹木價格	計	
森林					
五	五〇町〇・〇〇〇	五〇〇・〇〇〇圓	二、〇〇〇・〇〇〇圓	二、五〇〇・〇〇〇圓	
原野					
六	七〇・〇〇〇	三五〇・〇〇〇	五〇〇・〇〇〇	八五〇・〇〇〇	
計合 一一	一一〇・〇〇〇	八五〇・〇〇〇	二、五〇〇・〇〇〇	三、三五〇・〇〇〇	

備考

一　本報告ニハ大林區署長限リ見積價格ヲ決定セシメタル一箇月分ノ官有地處分ノ面積價格ノ合計ヲ掲記スルモノトス

第八號

報月

何明治分何年特別經濟ニ屬スル受付文書處分濟又ハ處分未濟件數報告　大林區署名

件名	前月ヨリ繰越	受本月	計	處分濟	未處分					
					本省上申中	往林區署中	往復官衙中	檢査中地跡	調査中	計
貿易										
交換										
貿上										
拓殖										
會計										
雜件										
合計										

備考

一　處分未濟件數中民願者ノ處理ニ係ルモノハ備考ニ其ノ受付年月ト件名トヲ掲記スベシ

二　處分未濟件數中民願者ノ明治三十二年農商務省令第四十九號訓令ニ依リ處理シタルモノアルトキハ備考ニ其ノ件數ヲ掲記スベシ

第九號

報月

官行事業報告　大林區署名

區小林名	事業地所	樹種數量	材積材定積過	買行材積過	豫定總額	實行總額	豫定價格	實行價格	着手年月日
何	何郡何村何林	杉	丸太	二、〇〇〇本 一、二〇〇尺ノ	二、〇〇〇本 一、二〇〇尺ノ	一、五〇〇圓	一、三五〇圓	八〇圓	一〇〇圓	三十六年三月一日 終了

說明

一　着手年月日ノ欄ニハ實行豫定材積實行總額實行價格欄ニハ實行見込額ヲ記載スベシ

第一〇號

報月

何明治何年分何月　不要存置林野處分調査價格變更報告　大林區署名

	箇所數	實測面積	土地價格	產物價格	計
森林					
增ノ部	一	〇町	二圓〇〇〇	一〇〇圓〇〇〇	一二圓〇〇〇
△減ノ部	△ 〇	△ 〇町〇〇〇	△ 一圓〇〇〇	△ 一〇圓〇〇〇	△ 一一圓〇〇〇
差引計	一	△ 〇町〇〇〇	一圓〇〇〇	九〇圓〇〇〇	九一圓〇〇〇
原野					
增ノ部	〇	〇	〇	〇	〇
△減ノ部	△ 〇	△ 〇	△ 〇	△ 〇	△ 〇
差引計	〇	〇	〇	〇	〇
同累計	一	△ 〇町〇〇〇	一圓〇〇〇	九〇圓〇〇〇	九一圓〇〇〇

備考

一　未報告ノ大林區署ニ於テ價格決定セルモノ（ハ其ノ價格ニ付五ヶ年目毎ニ一箇月分ヲ取纏メ報告スルモノトス）ニ對シ增減ノ生ジタル場合ニ於テ增及減ノ各差引ヲ一箇月分ヲ取纏メ報告スルモノトス（△印ハ朱書ヲ要ス）

第一一號

報月

何明治何年分何月　豫算外主產物處分報告　大林區署名

署小林區名	事業區名	林別	作業種別	樹種別	用材別ノ薪炭別	處分法	條適項用	目的使用	面積採取	豫算外處分 員數	豫算外處分 材積	豫算外處分 單位	豫算外處分 單價	豫算外處分 總價	國有林特定金額	入林金林區收	拂渡人 住所	拂渡人 氏名	備考
區署小林	業區何々事	作用	主伐	杉	用材	特賣	官有森林原野產物賣拂規則第何條第何項ニ依リ賣拂					尺		一圓〇〇〇	圓	一圓〇〇〇			
〃	村大字	保安	間伐	松	薪材	公賣						棚		一〇圓	一〇圓				
計												棚尺		一一圓〇〇〇 一〇圓	一一圓〇〇〇 一〇圓				
區署小林	村大字	作用	主伐	矮林	薪材	特賣	官有森林原野產物賣拂規則第何條第何項ニ依リ賣拂	自家用				束		圓・〇〇		圓・〇〇			
〃	業區何々事	作用	中間	松	用材	公賣						尺（ニ換算）		圓・〇〇	圓・〇〇				
計												棚尺		圓・〇〇 圓・〇〇	圓・〇〇	圓・〇〇 圓・〇〇			

合計	累計
……	……
……	……
…… ……	…… ……
…… ……	…… ……
……	……
……	……
……	……
……	……
…… ……	…… ……
…… ……	…… ……
尺 棚 〆	…… ……
……	……
一、六九七・六九六 四三・八六〇	…… ……
一二五・六八〇 一八・二五〇	…… ……
一、六七一・〇一四 一二五・六八〇	…… ……
……	……
……	……

備考

一 本表ニハ豫算外主産物處分ニ係ル賣拂度每ニ小林區署別ニ記載シ之レカ計ヲ掲ケ最後ニ各小林區署ヲ通シテ合計ヲ掲クヘシ

二 事業區名欄ニハ當該物件ノ存在セシ事業區名ヲ記載スヘシ若シ事業區名ナキ箇所ニ在リテハ國郡市町村大字、字名ヲ記載スヘシ

三 林別欄ニハ供用保安ノ別ヲ記載スヘシ

四 作業別欄ニハ皆伐喬林、前更喬林、擇伐喬林、矮林、中林、竹林ノ別ヲ記載スヘシ

五 斫伐名稱欄ニハ主伐、間伐ノ別ヲ記載スヘシ

六 種別欄ニハ生立木竹、部分木竹、被害木竹、支障木竹、試驗木竹、棄損木竹、盜伐木竹又ハ誤伐木竹等ノ別ヲ記載スヘシ

七 使用目欄ニハ學校用、橋梁用、鐵道工事用、社寺用、罹災者建築營繕用、罹災者薪炭用、自家用慣行、販賣用慣行、礦業用、林業附帶等ノ別ヲ記載スヘシ

八 伐採面積ハ國有林事業豫定案規程第十三條第四項ニ準シ記載スヘシ

九 材積單位ハ國有林事業豫定案規程第十三條第五項ノ定ムル所ニ依ルヘシ
但シ盜誤伐其ノ他ノ災害ニヨル林産物品ニ係ル時ハ通稱單位ヲ用ヒ其ノ品名竝單位ヲ記載シ括弧ヲ附スヘシ

十 計及合計欄ニハ材積單位ノ異ナル每ニ各〻之レニ相當スル員數、材積、總價、森林資金繰定金額、森林收入金額ヲ累計欄ニハ決等四月以降ノ累計ヲ記載スヘシ

第一二號

何月分不要存置林野處分報告　　　　大林區署名

賣拂價格				本年度收入豫算額	本年度收入豫算額ト本年度收入額ト差引増（△減）
本年度收入	第二年度收入	第三年度收入	合計		
圓	圓	圓	圓	圓	圓

月　日　　　　大林區署長

臣宛

リ代トシテ一寸以上ノ餘白ヲ存シ置クヘシ
スヘシ
スヘシ
合計欄ノミニ記載スヘシ
異動ヲ來シタルモノアルトキハ前月迄ノ處分欄ハ之レヲ加除シタルモノヲ記載シ尚備
シテ延納期間變更ノ爲メニ本年度ニ於テ五圓ヲ第二年度ニ於テ六十五圓ヲ増シ第三年
モノハ每月追加ノ額ヲ掲クルモノトス

第一三號

月報

年　何治明

	積面 町	所箇
代金一時納ノモノ　前月迄ノ處分		
代金一時納ノモノ　本月迄ノ處分		
代金一時納ノモノ　同　取消		
代金延納ノモノ　前月迄ノ處分		
代金延納ノモノ　本月迄ノ處分		
代金延納ノモノ　同　取消		
計		
代納延ノ係ルモノ　前年度ニ定調ノ許可ニ係ル本年度ニシテ金ノ前已		
合　計		

右及報告候也

明治　年

大務商農

注意

一　用紙ハ厚質美濃罫紙ヲ用ヒ中央ニ線調ヲ基トシテ製ス

二　本表ハ契約ノ締結ヲ根基トシテ調製ス

三　取消額ハ之レヲ朱書シ計ニ於テ差引ス

四　豫算額及豫算額ト實拂額トノ比較ハ

五　代金延納ノモノニシテ收入ニ年度ニ考ニ次ノ如ク記載スヘシ

（備考前月迄ノ處分ニ係ルモノニ度ニ於テ七十圓ヲ減セリ）

六　延納代金ニシテ本年度ノ調定ニ係ルモノ

（ヒ印ハ朱書ナリ）

第一四號

月報

明治何年度　特別經營費養成苗木處分報告　大林區署名

樹種	苗圃名及小林區名	數量	處分方法 價格	摘要
計				

（何ヘ讓與又ハ何某ヘ寄附等ノ要領ヲ簡明ニ記載ノコト）

月報

造林樹種撰定ニ關スル報告（經常部又ハ特別經營部）　大林區署名

種類	樹種	數量	面積
苗圃種	クルミ	一一、〇〇〇 石	一町
〃	クス	〇、三一〇〇	〇、三一〇〇
〃	〃	〃	〃
計			
播林地	クリ	一一、〇〇〇	二、八〇〇
〃	コナラ	一一、〇〇〇	一〇、〇〇〇
〃	〃	〃	〃
計			
新人工植	ホウ	一一〇、〇〇〇	六、〇〇〇
〃	ヒバ	三五三、〇〇〇	八、〇〇〇
〃	〃	〃	〃
計			
天然更新	トチ	一一〇、〇〇〇	六、〇〇〇
〃	ブナ、トチ、ホウ	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
手入	〃	〃	〃
計			

第一五號　甲

報月

年明何治月何　木材相場報告（市場名）

産地	樹種	材種				取扱相場	平均相場	一石換算立方尺	大林區署名
		名称及ビ寸法	長	末口ノ寸法	原品質				備考
熊本八代	杉	柚角	丈 四尺	四寸	並	屑	一圓	一圓	檢千屑尺五ト八百末立五百寸角二寸ニ付キ三ツ
熊本八代	杉	柚角	丈 四	七	並	屑	〃	〃	
熊本八代	杉	柚角	丈 四	一〇	並	屑	〃	〃	
熊本八代	檜	丸太	丈 三	八	並	尺〆	〃	〃	檢尺ハ末徑ニ依ル
紀州尼怒	杉	四分板	丈五	四九	無節	束	〃	〃	一束ハ十四枚ヨリナル
紀州尼怒	樅	六分板	丈〇	四三	並	束	〃	〃	一束ハ十八枚ヨリナル
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

第一五號　乙

報月

年明何治月何　薪炭相場報告（市場名）

産地		樹種	品種	單位	平均相場	換算一石ニ付キ	大林區署名
		名稱					備考
武州	千葉郡	薪	松	丸物生	一圓	〃	一石ハ長サ三尺ノ丸太ヲ積ミ上ケ周圍ヲ以テ計リ一尺ヲ減ジ其ノ殘リヲ二乘シ更ニ長サヲ乘シ其ノ數ヲ以テ一石トス
武州	千葉郡	薪	松	割物生	束	〃	一束ハ長サ三尺ノ割木ヲ束ネ周圍ヲ以テ計リ一尺ヲ減ジ其ノ殘リヲ二乘シ更ニ長サヲ乘シ其ノ數ヲ以テ一束トス
武州	雜種	五割尺物	雜		〃	〃	尺五ハ長サ三尺ノ切木ヲ束ネ周圍ヲ以テ計リ一尺ヲ減ジ其ノ殘リヲ二乘シ更ニ長サヲ乘シ其ノ數ヲ以テ一束トス

野州	炭	楢	石釜上	俵	〃	〃	〃	一俵五貫目ト ス
野州	炭	楢	丸窯荒炭	俵	〃	〃	〃	五貫俵
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

備考

一　各大林區署ニ於テ木材相場立ノ中心ト認ムル一市場ヲ指定シ毎月其ノ市場ニ就テ各種ノ木材竹類及薪炭ノ相場ヲ調査シ木材、竹類ノ相場ハ甲號樣式ニヨリ薪炭相場ハ乙號樣式ニ據リ各其ノ相場表ヲ調製スルコト

二　相場表ハ各市場毎ニ調製スルコト

三　相場ハ產地名ヲ以テ自ラ其ノ品質又ハ相場ヲ表スルモノハ其ノ產地名毎ニ區別シ木材ニ在リテハ名稱ヲ記載スル外更ニ以下之ニ同シ）角材（柚角又ハ割角、押角、末口角、芯角等ヲ）板（一寸、八分、六分、四分板）板割、貳、板子、松木、下駄材、小割物、雜用、鏡、鏡板、割板、長押、縁、縁板、敷居、鴨居、小白木類等ニ區別シ竹類ニ在リテハ其ノ種類別ニヨリ區別シ其ノ外其ノ用法別ニヨリ區別スルモノハ丸物材、割物生等ニ在リテハ石釜上、窯荒窯炭ノ如シ）ニ區別シ各其ノ相場ヲ調査スルコト

四　長、直徑、太サ、幅、厚ハ何レモ正寸尺ヲ以テ記載スルコト

五　丸太材ノ直徑ハ普通左ノ四種ニ區別シ其ノ中位ノモノニ付相場ヲ調査スルコト但シ特種ノモノハ此ノ限ニアラス

一　末徑六寸未滿　　三　末徑尺以上尺四寸迄
二　末徑六寸以上九寸迄　　四　末徑尺五寸以上

六　角材ハ超徑ニ依リ其ノ大小區々ニシテ強ヲ以テ相場ヲ調査スルコト但シ特種ノモノハ此ノ限ニアラス

一　三寸乃至五寸角　　三　尺乃至尺二寸角
二　六寸乃至九寸角　　四　尺三寸角以上

七　品質ニ付テハ角材、丸太材其ノ他ノ木材竹材薪材ハ總テ並物ノ相場ヲ調査スルコト

板類ハ丸身無レノモノニ付無節、小節、並ノ三種ニ分チ其ノ相場ヲ調査スルコト

八　單位欄ニ掲クヘキ相場單位ハ各市場ニ於テ現今猶慣用スル單位ヲ云フ（例ハ丸太、角物、板子類ニ對シ鹿兒島地方ニテハ肩ヲ以テ單位トスルモ其ノ他ノ地方ニテハ尺〆又ハオヲ用フル類ノ如シ）

九　平均相場欄ニ掲クヘキ相場價格ハ市場其ノ月ニ於ケル相場價額ヲ平均シタルモノヲ記載スルコト

十　木材中平木、竹類及薪材ヲ除クノ外總テ必ス十立方尺換算價ヲ記入シ木炭ハ十貫目換算價ヲ記入スルコト

十一　一箇月中ノ相場ニ於テ最高最低ノ差ヲ確實ニ認知シ得ラルルモノハ其ノ最高最低價並特種ノ木取リ名稱、特種ノ相場單位、檢尺方法（主トシテ檢尺ヲナス箇所）等說明ヲ要スル事項ヲ簡單ニ備考欄ニ記入スルコト

十二　備考欄ニ記入シ得サルモノ及其ノ月ニ於ケル木材商況、將來ニ於ケル見込並特種ノ事由ニヨリ著シク市場相場ニ變動ヲ來ス豫想アル時其ノ他必要ナル事項ハ相場表ノ餘白ニ記入スルコト

十三　相場表ノ大サハ美濃版用紙ヲ用フルコト

第一六號

月報

明治何年何月分累計　主副產物及製材收入調定額報告　大林區署名

科目	令達額	本月累計調定額	前年度本月累計調定額	令達額ト本月累計調定額トノ比較增減	同上步合
主產物	圓	圓	圓	圓	圓
副產物					
計					
製材					
合計					

備考

一　比較增減ノ增ハ朱書減ハ墨書スルモノトス

第一七號

月報

明治何年何月分　製材所製品現存額報告　大林區署名

現存箇所	樹種	品種	員數	材積	價格 單價	價格 總額	備考
計							

第一八號

月報

明治何年何月分　林產物現存額報告　大林區署名

現存箇所	樹種	材種	本數	材積	價格 單價	價格 總額	備考
計							

第一九號

月報

明治何年何月分　主産物處分報告　大林區署名

記入番號	處分法	特賣事由	樹種	伐採別	伐採面積	數量	價格	拂受人	備考

第二〇號

季報

不要存置林野處分調査功程　自何年何月至何年何月　第何回報告　大林區署名

總組功程延數

組數	調査日數 外業	調査日數 內業	調査日數 其他	調査日數 計	箇所	面積
甲組						
乙組						
計						

一組一日ノ功程

功程區別	箇所 甲組	箇所 乙組	面積 甲組	面積 乙組
外業				
內業				
調査				

備考

注意

一　組數ハ配付ノ組數ヲ掲クルモノトス但シ配付組數ト實際配置ノ組數ト差違アルモノハ其ノ組種、組數及配置ノ事由ヲ備考ニ記載スヘシ

第二一號

季報

自明治何年何月至同何年何月　無願開墾植樹地處分調査及賣拂　大林區署名

處分成績報告

前期處分調査濟繰越 箇所	前期處分調査濟繰越 面積	本期處分調査濟 箇所	本期處分調査濟 面積	處分調査濟計 箇所	處分調査濟計 面積	本期賣拂處分濟 箇所	本期賣拂處分濟 面積	處分調査濟賣拂未濟 箇所	處分調査濟賣拂未濟 面積	處分調査未濟 箇所	處分調査未濟 面積

第二三號

種目	專決處分			經何處分			
	箇所數	面積 町	價格 圓	箇所數	面積 町	價格 圓	箇所數
森林		△	△		△	△	
原野							
計							

右及報告候也

明治　年　月　日

何大林區署長官氏名印

農商務大臣宛

備考

一　用紙厚質美濃罫紙ヲ用ヒ中央ニ綴代トシテ一寸以上ノ餘白ヲ存シ置タヘシ

二　園地ノ關係ニヨリ森林ト原野トヲ合同シテ賣拂豫約ヲ許可シタルモノニ在リテハ面積ノ大ナル地目ノ部ニ掲記スヘシ

（△印ハ朱書ナリ）

第二三號

季報

計	
面積 町	價格 圓
△	△

明治何年度第何回分

國有林野賣拂豫約處分報告

大林區署名

報季

明治何年何季　何製材所現業員働効手當給與報告　大林區署名

日出數動	時刻間隔	時間除	晝一時間間	夜業出給	加給合算額	俸給	非職合俸給	事務取扱	官氏名
									屬何某
									同何某
									同何某
									同何某
計									
									屬何某
									同何某
計									
合計									

（附錄）

	人員	給與額	給料支給額	前給給料合	平均一人給與額
囑託員					
給仕					
小使					
計					

第十四號

報季

明治何年何月現在何職員表　大林區署名

員數	職名	官名	俸給	氏名

備考

一　木表ハ毎年二月、五月、八月、十一月末日現在ヲ以テ其月七日限リ報告スヘシ

二　職員數ハ森林殖、經營殖ノ區別ヲ分記スヘシ

三　職名ハ本署ニ在リテハ何課（長）何係（或）小林區ニ在リテハ何小林區長或（又）（何係擔當）ノ區別ヲ分チ本署及各小林區毎ニ列記スヘシ

四　俸給ハ本署及各小林區毎ニ殺モ高キ者ヨリ順次列記スヘシ

第十五號

報年季

何年度自何年何月經常（特別經營）造林豫定事業不實行報告　大林區署名

區小林名	箇所名	事業種別	面積	數又ハ延長	經費	事由
甲	何山	植人工新栽	一〇〇町〇〇〇	五〇〇、〇〇〇本	二、〇〇〇圓	下戻ノ申請中ニシテ許可ノ指令ヲ受ケサルニ付本年ハ實行ノ運ニ至ラス
乙	〃	〃手入	五〇町〇〇〇	一	三五〇〇〇	雜木ノ繁茂多カラス本年ハ手入ヲ實施セス
丙	〃	生天然手入	六〇町〇〇〇	一	三〇〇〇〇	何々
丁	〃	防火線新設	二町〇〇〇	一、二〇〇間	九〇〇〇	何某山人工植栽ニ附帶シ防火線ヲ新設スル豫定ナリシモ本年ハ植栽ヲ實行セサルニ付不實行ノ結果
計			三一二町〇〇〇	五〇〇、〇〇〇本 一、二〇〇間	三、四五〇〇〇	

不實行總數使途左ノ如シ

一　各何官國ハ同一類別何小林區何山何々事業豫定經費不足ノ見込ニ付該豫定ノ實施ヲ變更シ繰延ヘキ事情アリ

三　金何百圓ハ何年何月何日第何號ヲ以テ認可ヲ經何小林區何山何事業追加豫定ニ充ツル爲リヲ以テ調度ニ

四　金何百圓ハ何小林區何山何事業追加豫定ニ充ツル爲リヲ以テ調度ニ

（注　意）

一　毎年四月ヨリ九月迄ノ分ヲ取纏メ十月ヨリ翌年三月迄ノ分ヲ四月内ニ報告ノコト

二　記載部ト特別總括ハ各別ニ調製ノコト

三　大表各欄ハ指定豫記入事項毎ニ列記シ合計セシ面ニ總額ヲ掲ケサルコト

第二六號

報年牛

明治何何年伐木造材運材事業並ニ現業員勤勞手當給與調報告

大林區署名

日歩數	日控數除	法差日引數	標準一日當ノ	賃銀出給	割加減	給與額	俸給	差引合俸給	擔任事務	官氏名
									何某主任所	屬何某
									何某所	技手何某
									〃〃	同何某
計										
									〃〃	屬何某
									〃〃	同何某
									〃〃	同何某
計										
合計										

（附　錄）

第二七號

報年

何年度ヘヨリ繰越事業報告

大林區署名

何々定夫	人員	給與額	給料支給額	對給料歩合	平均一人給與額
計					

造林第一部

小林區名	事業地	事業名	面積	材積	金額	繰越理由
〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃
	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	
小計			〃〃〃〃		〃〃〃〃	
〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃
小計			〃〃〃〃		〃〃〃〃	
計						

造林第二部

小林區名	事業地	事業名	面積	延長	金額	繰越理由
〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃
	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃
小計			〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	
計						

官行事業

小林區名	事業地	事業名	出種	資材數量	造林數量	金額	繰越理由
〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃〃〃〃〃
	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃〃〃〃〃
	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	
小計				〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	
計							

記載例

一　金額ハ繰越計算書ニ一致スルヲ要ス
二　事業ハ一事業地毎ニ別記スルコト
三　一事業地ニテモ事業數ナルトキハ別記スルコト
四　事業名ハ事業設定簿ノ事業名ニヨリ別記スルコト

第二八號

年報

明治何年度

境界査定成績表

大林區署名

着手月日	終了月日	査定官氏名	備考
	84 8/5	官氏名	
———	———	———	
———	———	———	
———	———	———	
———	———	———	
———	———	———	

町村	大字	字	團地數	地區數	延長距離	査定點數	境界標數 石標	固定岩石	木標	土石塚	計	設備標數	業務別日數 旅行	外業	内業	計	經費 全	一里當	外業一日ノ功程 測定點數	延長距離	内外業平均一日ノ功程 査定點數	延長距離
		1	既濟ノ部																			
			本年度以前着手ノ分																			
					△5.015	△520	△31	△11	△83	△20	△146	△8	△5	△19	△7	△31	△98.50	△1.930	△29	△0.930	△20	△0.700
					2.121	312	23	7	52	11	73	7	4	11	3	18	51.30	25.15	28	0.734	22	0.720
		計																				
			本年度着手ノ分																			
		計																				
	合計																					
		2	未濟ノ部																			
			本年度以前着手ノ分																			
		計																				
			本年度着手ノ分																			
		計																				
	合計																					

團隊ヲ調製シ大林區署長ニ於テ承認シタルモノニシテ本年度ニ施行シタル成績ヲ掲記
ノ分ハ本年度以前ニ着手シ本年度ニ至リテハ既濟トナリタルモノヲ掲記シ前年度ノ成
記シ計ノ部ニ於テノ合數ヲ記シ其下段ニ更ニ改算シタルモノヲ併記ス
仕拂ヒタルモノヲ掲記シ其合計額ハ支拂總額ニ一致スルヲ要ス
ノ各欄ハ一團地ニ對スルヲ記入スヘシ但經費ハ既濟部合計經費ヨリ比例シ又ハ適宜ノ
テ一寸以上ノ餘白ヲ存シ置クヘシ
ナリ）

ス
設ニ係ルモノハ上段ニ朱記ス

方法ニヨリ算出ス

第二九號

年報

明治何年度

境界査定成績總括表

大林區署名

郡市	國	豫定表記入番號	記入番號
總計			

注意
一　既濟ノ部ハ査定
二　本年度以前着手
三　延長ハ間ヲ以テ
四　經費ハ當年度ニ
五　業務別日數以下
六　中央ニ縦代トレ
（△印ハ朱書

經費		外業一日ノ功程		内外業平均一日ノ功程		着手月日	終了月日	備考
全	一里當	査定點數	延長距離	査定點數	延長距離			

年度	施行區別	組數	地區數	字數	圖地數	延長距離	査定點數
本年度	既濟						
ク	未濟						
計							
初年度乃至本年度	既濟						
ク	未濟						
計							
本年度	豫定						
ク	既濟ト差引增減						
初年度乃至本年度	豫定						
ク	既濟ト差引增減						

注意

一　組數ハ其年度ニ配當シタル組數ヲ掲ク

二　初年度トハ始メテ特別經營費ヲ以テ査定ニ從事シタル年度ヲ謂フ

三　經費ノ既濟未濟ノ區別ハ第三〇號樣式ニ依ル

（△印ハ朱書ナリ）

境界標數					豫備標數	業務別日數			
石標	定石固岩	木標	土砂塚	計		旅行	外業	内業	計

第三〇號

年報

明治何年度
境界査定成績表
附屬
經費內譯表

大林區署名

備考	增
	金額

區別	科目	種類	豫定			實行			差引	
			數量	單位	金額	數量	單位	金額	數量	單位
既濟	、、、									
計	、、、									
未濟										
計										
合計										

注意

一　既濟中ニハ創業費ヲ合算スヘシ

二　經費ハ當年度ニ支拂ヒタルモノヲ掲記スヘシ

豫定總數		既濟數ニ對スル豫定數		未濟數	
箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積
10,000	△10,000 0000	5,000	△5,000 0000	5,000	△5,000 0000

記載例

一　豫定總數欄ノ面積ハ三十六年四月林陵第三九號達面積ヲ揭クヘシ
　　同上欄ノ箇所ハ三十年六月戊第一三二號達ニヨリ算出シタル豫定表ニヨルヘシ
　　但シ其後變動ヲ來シタルモノハ訂正シタル面積箇所ヲ用フヘシ
二　既濟數ニ對スル豫定數ハ既濟部分ニ對スル豫定部分ヲ揭記スヘシ
　　即チ面積ハ實測面積ニ對スル豫定面積ヲ揭記スヘシ
三　未濟數ハ豫定總數ヨリ既濟數ニ對スル豫定數ヲ差引シタルモノヲ揭クヘシ
四　本表ニハ圖簿調製濟ノモノノミヲ用フヘシ
　　（△印ハ朱書ナリ）

第三一號

報年

明治何年度

境界實測功程表

大林區署名

備考

積		經費	調査日數			功	程		備考
差引			外業	內業	計	毎里經費	二日一里程	外業一日ニ對スル	
增	減								
	200 0000		6,630 30	130 20	6,760 50				
	200 0000	4,440 000	6,660	150	6,810	4 000		06 00	
5 0000			61 34	54 40	115 74				
5 0000		585 000	95	94	189	15 000		14 47	
		585 000	6,755	244	6,999	4 373		06 16	

年報

明治何年度

境界實測成績表

大林區署名

第三三號

年報

明治何年度

境界實測成績箇所別表

大林區署名

區別	組數
本年度前圖簿調製濟	
本年度前圖簿未調製	
計	86
本年度圖簿調製濟	
本年度圖簿未調製	
計	1
合計	87

記載例

一　本年度前圖簿調製濟行
二　本年度前圖簿未調製行
三　本年度圖簿調製濟及未
四　本年度圖簿調製濟ノ行
五　本年度前圖簿未調製行
六　測點欄ノ總數ハ箇所別
七　標杭數ハ石標木標土壇
八　功程ノ每里經費ハ前衆
九　中央ニ一寸以上ノ數代
（△印ハ朱書ナリ）

箇所		測點		延長里程	面	
箇所數	圖地數	總數	標杭數	里 町 間	實測	整頓
490	88	999	790	1,103 00 00	1,000 0000	1,200 0000
2	2	90	70	7 00 00		
492	40	1,080	890	1,110 00 00	1,000 0000	1,200 0000
4	3	225	115	24 00 00	215 0000	210 0000
3	3	86	48	15 00 00		
7	6	314	160	39 00 00	215 0000	210 0000
499	46	1,394	1,024	1,149 00 00	1,215 0000	1,410 0000

ニハ本年度前ニ屬スル圖簿調製濟ノ總數ヲ揭クヘシ
ニハ箇所別表三ノ部ノ計ヲ揭クヘシ
調製ノ計ニ於ケル經費ハ本年度前ニ屬スル經費決算額ノ累計ヲ揭クヘシ
ニハ箇所別表ニ於ケル本年度調查ト本年度前調查トノ合計數ヲ揭クヘシ
ニハ同上
表測點數ノ合計ヲ揭クヘシ
ノ合計ヲ揭クヘシ
後除ニテ二千百六十間ニ對シ算出スヘシ
ヲ存シ置クヘシ

延長里程						測點					
本年度調査		本年度前調査			合計	本年度調査					本
町	間	里	町	間		石標	木標	土壘	其他	計	石標
△	△	△	△	△							
度	圖	簿	調	製	濟ノ部						
00	00	△0	0	0	3 00 00	5	5	5	50	65	△ 0
00	00	△3	00	00	15 00 00	10	10	10	20	50	△10
00	00	△5	00	00	6 00 00	2	8	10	10	30	△ 2
00	00	△8	00	00	24 00 00	17	23	25	80	145	△12
度	圖	簿	未	調	製ノ部						
00	00	△0	0	0	5 00 00	10	10	10	10	40	△ 0
00	00	△3	00	00	10 00 00	1	1	1	1	4	△ 5
						0	0	0	25	25	△ 0
00	00	△3	00	00	15 00 00	11	11	11	36	69	△ 5
度	調	査	ニ	著	手セサル部						
		△3	00	00	△3 00 00						△10
		△4	00	00	△4 00 00						△10
		△7	00	00	△7 00 00						△20

ノ合計面積ヲ記載スヘシ
合數ヲ朱書スヘシ

ヘシ

包含スルモノニシテ病氣其ノ他ノ事故ニヨリ實測上業務ニ從事セサリシ日數ハ控除シ

數					調査日數							備考
年度前調査				合計	本年度調査			本年度前調査			合計	
木標	土壘	其他	計		外業	内業	計	外業	内業	計		
△ 0	△ 0	△ 0	△ 0	65	10	10	20	△ 0	△ 0	△ 0	20	
△10	△10	△20	△50	100	10	10	20	△30	△20	△50	70	
△ 8	△10	△10	△30	60	1	4	5	△10	△10	△20	25	
△18	△20	△30	△80	225	21	24	45	△40	△30	△70	115	
△ 0	△ 0	△ 0	△ 0	40	10	10	20	△ 0	△ 0	△ 0	20	
△ 5	△ 5	△ 5	△20	24	10	10	20	△10	△10	△20	40	
△ 0	△ 0	△ 0	△ 0	25	4	10	14	△ 0	△ 0	△ 0	14	
△ 5	△ 5	△ 5	△20	89	24	30	54	△10	△10	△20	74	
△10	△10	△10	△40	△40				△10	△10	△20	△20	
△20	△10	△10	△50	△50				△20	△10	△30	△30	
△20	△20	△20	△90	△90				△30	△20	△50	△50	

其ノ日數ハ備考ニ說明スヘシ

國	郡	市町村	大字	字	著手年度	帳面積 町 歩	所在箇所數	隔地數	實測面積 町 歩	本年	
						△			1 △本	年	
何	何	何	何	何	32	10 0000	1	1	15 0000		3
〃	〃	〃	〃	〃	30	50 0000	1	1	120 0000		12
〃	〃	〃	〃	〃	30	50 0000	1				
〃	〃	〃	〃	〃	29	100 0000	1	1	20 0000		1
				計		210 0000	4	3	215 0000		16
									2 △本	年	
〃	〃	〃	〃	〃	32	100 0000	1	1			5
					29	100 0000	1	1			7
					82	100 0000	1	1			
				計		300 0000	1	1			12
									△3	△本	年
△〃	△〃	△〃	△〃	△〃	△30	△ 5 0000	△1	△1			
△〃	△〃	△〃	△〃	△〃	△29	△10 0000	△1	△1			
				△計		△15 0000	△2	△2			

記載例

一　面積ハ字毎ニ實測シタルモノハ字毎ニ圍地ヲ以テ實測シタルモノハ其
二　本年度前調査欄ニハ朱書ヲ以テ記載スヘシ但數年度ニ跨ユモノハ其ノ
三　圖面未調製ノモノハ面積ヲ揭載セサルモノトス
四　延長里程ハ間未滿ハ四捨五入ヲ以テ間位ニ止ムヘシ
五　備考ニハ特別ニ揭記ヲ要スル事項ヲ揭クヘシ
六　査定ノミニシテ實測ニ著手セサルモノハ備考ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ
七　共通線ハ圍地毎ニ算入シ其延長里程測點數及標杭數ヲ備考欄ニ記載ス
八　外業日數ハ境界査定及實測上ノ野外事業ニ從事シタル日數ヲ揭クヘシ
九　内業日數ハ計算製圖等室内事業ハ勿論實測事業ニ關聯スル往復日數ヲ
一〇　中央ニ一寸以上ノ設代ヲ存シ置クヘシ
（△印ハ朱書ナリ）

年報

明治何年度

表繪成成編紮施業林有國

大林區署名

備考	實測 町 歩	著手年月日	完成年月日	調査主任官氏名	一町歩ニ付キ經費
	△				△

區別	國	郡(市)	村(町)	大字	字	事業區名	面積	作業級數	林班數	組數	日數 外業	日數 旅行	日數 計	經費	功程 日ニ積ル一ス外ニ面	功程 其ニ積ル一ス外ニ面
							△							△	△	△

注意

製表用紙　厚質美濃　寸法　横一尺三寸縱九寸　中央綴代　六分乃至一寸

(△印ハ朱線ナリ)

第三五號

報年

明治何年度

國有林施業案編成成績總括表

大林區署名

事由	備考

年度	施行區別	組數	面積	經費 全	經費 一町歩	日數 外業	日數 旅行	日數 計	功程 外業ノ一	功程 内ニ頼面	功程 他一年積	年平年月日	年月日

注意

製表用紙 厚質美濃 寸法 横一尺三寸縦九寸 中央綴代 六分乃至一寸

第三六號

報年

明治何年度

國有林施業案編成成績表

附錄

經費内譯表

大林區署名

備考

區別	科目	種類	豫定			實行			差引增減			事由
			數量	單價	金額	數量	單價	金額	數量	單價	金額	

注意

製表用紙　厚質美濃　寸法　横一尺三寸縱九寸　中央綴代　六分乃至一寸

第三七號

年報

明治何年度造林成績表

大林區署名

第一　明治何年度人工(砂防)植栽(天然生育)成績表　大林區署名

府縣	種類	着手年月 成功年月	樹種	箇所	面積	苗木 苗數	代金	地經費	其他	合計	經費	一町歩當り 經費	經費	一町歩當り 經費	面積	苗數	經費	成績ノ良否
東	新植				町		圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	町		圓	
	第一回補植																	
	第何回補植																	
	計																	

種類		事業年月	種苗	所面積	反別	合計	面積	人夫賃	雇入人夫賃	人夫賃	賃金	合計	費用	備考
種類		事業年月	種苗	所面積	反別	合計	面積	人夫賃	雇入人夫賃	人夫賃	賃金	合計	費用	備考
計	合計													
	何々													
	新植													
	何々													
	計													
實	合計													
	第一回手入													
	第何回手入													
	計													

備考

第11　年明度治何　苗木養成成績表(明細部)　大林區署名

種類		事業年月	種苗	所面積	反別	合計	面積	人夫賃	雇入人夫賃	人夫賃	賃金	合計	費用	備考
種類		事業年月	種苗	所面積	反別	合計	面積	人夫賃	雇入人夫賃	人夫賃	賃金	合計	費用	備考
計	合計													
	何々													
	新植													
	何々													
	計													
實	合計													
	第一回手入													
	第何回手入													
	計													

回　上(森實部)

種類	所面積	反別	合計	面積	総数	合計	人夫賃	雇入人夫賃	人夫賃	賃金	合計	費用	一本ノ人夫ニ付ノ比較	備考

第一一ノ一　三月三十一日現在十年生以上林野面積現在表　　大林區署名

小林區署	國有林野				官用地				民有地				合計			
	箇所	面積			箇所	面積			箇所	面積			箇所	面積		
		町				町				町				町		
合計																

第二　明治何年度何林區開設（河川流通）（防火線築設）成績表　　大林區署名

區別	種類	着手年月	箇所	又面幅小	長	歩合	人夫	賃金	計	歩合	人夫	賃金	計	合計	國費	民費	計	歩合	國費	民費	計	備考
新	溝路																					
	木橋																					
何																						

第三　明治何年度何林區造林成績總括表　　大林區署名

種類		箇所	數量	面積	經費	歩合	人夫	賃金	計	歩合	人夫	賃金	計	備考
人工植栽	新植													
	補植													
	手入													
	計													
防沙	新植													
	補植													
修繕	溝路													
	木橋													
	何													
	計													
合計														

植栽		天然生育	苗圃				合計	林道			河川			防火線
手入	計		播種	床替	計	養成苗數		新設	修繕	計	新設	修繕	計	固定新設

防火線						合計	總計
固定修繕	計	臨時新設	臨時修繕	計	合計		

第五　明治何年度造林樹種別總括表　大林區署名

區別		スギ 箇所	面積	數量	經費	單位數量	單位經費
人工植栽	新植						
	補植						
	手入						
	計						
砂防植栽	新植						
	補植						
	手入						
	計						
天然生育							
苗圃	播種						
	床替						
	計						
	養成苗						
備考							

存置						合計		
存廢區別決定濟			計					
箇所	面積		箇所	面積		箇所	面積	

注意

一　用紙ハ厚質美濃罫紙ヲ用ヒ中央ニ綴リ代トシテ一寸以上ノ餘白ヲ存シ置ヘシ

二　面積ハ調査價格決定濟ノモノニ在リテハ實測面積
存廢區別決定濟及同未濟ノモノニ在リテハ實況調査面積
實況調査脱落及同未濟ノモノニ在リテハ見込面積ヲ計上スヘシ

三　實況調査脱落又ハ同未濟ニ係ルトキハ要存置不要存置ノ區別ハ各其ノ見込ニヨルヘシ

四　調査價格決定濟トハ經伺ノモノニ在リテハ認可濟專決ノモノニ在リテハ報告濟ノモノトス

五　處分調査價格決定濟ノモノニシテ其一部分ノ離權ニ係ルモノノ調査價格ハ計上スルニ及ハス

第三八號

年報

明治何年度分

國有林野離權處分濟報告

大林區署名

何々	合計					
	單位量		經費	數量	面積	箇所
、、	經費	數量				

異動事由	種別	要存置 存廢區別決定済 箇所	要存置 存廢區別決定済 面積	存置 存廢區別未決定 箇所	存置 存廢區別未決定 面積	存置 計 箇所	存置 計 面積	不要 調査價格決定済 箇所	不要 調査價格決定済 面積	不要 調査價格決定済 調査價格	不要 存廢區別決定済 箇所	不要 存廢區別決定済 面積
全部處分ノモノ												
境内編入	森林											
	原野											
	計											
民有下戻	森林											
	原野											
	計											
讓與及組替	森林											
	原野											
	計											
一部分處分ノモノ												
境内編入	森林											
	原野											
	計											
民有下戻	森林											
	原野											
	計											
讓與及組替	森林											
	原野											
	計											
合計	森林											
	原野											
	合計											

第三九號

年報

苗木讓與報告

經營部ヨリ特別經營ヘ

樹種	數量	千本養成費	摘要
杉	二〇,〇〇〇	圓 四.〇〇〇	内一五,〇〇〇本ハ山地ヘ移植五,〇〇〇本ハ床替
赤松	一,〇〇〇	三.〇〇〇	全部ハ山地ヘ移植
櫸	五,〇〇〇	五.〇〇〇	全部ハ何小林區苗圃ヘ床替
何	二,〇〇〇	二.〇〇〇	何々

特別經營ヨリ經營部ヘ

樹種	數量	千本養成費	摘要

大林區署名

何	計
何	一〇、〇〇〇
何々	一、五〇〇
	三八、〇〇〇

注意

一　摘要欄ニハ讓受ケタル苗木ノ用途即チ山地移植濟又ハ床替濟ノ區別及各其ノ數量ヲ無洩記入シ置クコト

二　甲大林區署ヨリ乙大林區署ヘ讓與セシモノハ本表ニ準シ別表ニ調製ノコト

第四〇號

年報

小林區署及保護區區域竝國有林野面積報告　大林區署名

小林區名	甲				乙				丙				計
管轄區域	東南												
府縣大林區署ヘノ距離	西北												
國有森林	箇所												
	面積												
國有原野	箇所												
	面積												
保護區	官舍名稱	一イ	二ロ	三ハ	一ニ	二ホ	三ヘ	四ト	一チ	二リ			
	區域 廣袤	東西 南北											
	國有森林	官舍ヨリ小林區署ヘノ距離											
	箇所												
	面積												
	國有原野												
	箇所												
	面積												

第四一號

備考

一　記載事項全部ニ對シ異動增減ナキモノハ單ニ其ノ旨ヲ報告シ本書式ニ依ル報告ヲ要セス

二　距離ハ順路ニ據リ里、哩、海里等各別ニ記載スヘシ

年報

明治何年度

不要存置國有林野處分成績報告

大林區署名

調査ヲ爲サスノ調査ヲ爲サルモノ	
面積	格價拂賣

本年度賣拂				本年度末賣拂未濟			分賣處ヲ
箇所	面積	調査價格	賣拂價格	箇所	面積	調査價格	箇所

ニ掲記スヘシ

其箇所面積及調査價格ヲ當該欄ニ朱記スヘシ

計			本年度處分調査			賣拂未濟	
箇所	面積	調査價格	箇所	面積	調査價格	面積	調査價格

報告候也

明治　年　月　日

何大林區署長

官　氏　名印

農商務大臣宛

ニヨリ森林ト原野トヲ合同シテ處分調査ヲ爲シタルモノハ其ノ面積ノ大ナル地目ノ部調査欄ヘハ見積價格ヲ決定シタルモノ及認可ヲ受ケタルモノヲ掲上スヘシ

賣拂未濟及本年度處分調査濟ノモノニシテ組替讓與等ノ爲メ離報シタルモノアルトキハ

第四二號

報年

明治何年度分

不要存置國有林野處分

(府縣別)(總括)報告

府　縣

大林區署名

年前	目種	
所箇	林野計	森原

及右

備考
一　團地ノ關係
二　本年度處分
三　前年度末實

積面		量數物產	價格					
			調査		賣拂		比較	
町			圓		圓		圓	圓

事由	種目	箇所
(甲) 特賣		
(一) 公用又ハ公益事業ノ爲	森林原野計	
(二) 市町村基本財産ノ爲	森林原野計	
(三) 小學校基本財産ノ爲	森林原野計	
(四) 上地林ヲ其ノ社寺ニ	森林	
(五) 部分林ヲ分收權利者ニ	森林	
(六) 官地民木林ヲ其ノ樹木所有者ニ	森林	
(七) 重要産物採收慣行者ニ	森林原野計	
(八) 入會慣行者ニ	森林原野計	

格	
比較	增

箇所	面積 町	産物數量	價	
			調査	賣拂

事由	種目
(九) 城趾ヲ舊藩主ニ	森林原野計
(一〇) 神祠佛堂墓碑其ノ他遺跡ノ存スル緣故者ニ	森林原野計
(一一) 古紀社傳又ハ歷史ノ證スル林野ヲ其ノ緣故者ニ	森林原野計
(一二) 鑛業ノ爲貸付又ハ使用セシメタル林野ヲ採掘權者ニ	森林原野計
(一三) 保安林ヲ其ノ直接利害關係者ニ	森林
(一四) 耕地整理地區ニ編入セル林野ヲ參加土地所有者ニ	森林原野計
(一五) 其他	森林原野計
合計	森林原野計

注意

一　本報告ハ府縣別ト其ノ總括トヲ調製スヘシ
但大林區署ノ管轄區域一府縣ニ止ルモノハ總括ノ報告ヲ要セス

二　用紙ハ厚質美濃罫紙ヲ用ヰ中央ニ綴リ代トシテ一寸以上ノ餘白ヲ存シ置クヘシ

三　本報告ノ箇所、面積及賣拂價格ハ明治三十七年林發第四三三號ニ依リ報告スルモノノ總計ト一致スルヲ要ス

四　產物ノ數量ハ尺〆・棚ヲ以テ計算セシモノノミヲ掲クヘシ

五　產物ノミノ處分ニ係ル場合ハ箇所及面積欄ノ記入ヲ要セス

六　公賣ニ在リテハ其ノ豫定價格ヲ調査價格ノ欄內上方ニ朱記スヘシ

箇所	面積	產物數量	價格 調査	價格 賣拂	價格 比較
	圓	圓	圓	圓	圓

第四三號

大林區署名

[illegible]	編成理由	備考	事由	種目
何號			(一) 處分調査ヲ爲サスシテ處分シタルモノ	
			1. 土地及產物トモノ處分	林野 森原 計
			2. 土地ノミノ處分	林野 森原 計
			3. 產物ノミノ處分	林野 森原 計
			(乙) 公賣	林野 森原 計
			總計	林野 森原 計
	本欄ニハ編成ノ理由要急順序ヲ決定シタル理由及許否若クハ省略ナル方法ニヨル理由ヲ簡明ニ記スヘシ	本欄ニハ測量未済箇所ニ就キ其ノ終了見込年月並第十四號ノ事項ニ關係アルモノニ付キ其ノ種類程度等ノ概要其ノ他必要ナル事項ヲ記スヘシ		

明治何年度施業案編成要急箇所取調表

面積 (町)	地況	林況	利用	已往毎年(最近何箇年平均) 伐採 面積	已往毎年 伐採 材積	已往毎年 純收入	將來ノ見込(毎年) 伐採 面積	將來ノ見込 伐採 材積	將來ノ見込 純收入	更新
800 500 1,200	何港ヲ距ル五里乃至八里、海面上最低約1,600尺森林帶ハ寒帶ニ屬シ氣候溫暖、地味上、保安ニ關係アル箇所ナシ	モミ、ツガ三分クリ一分ケヤキ僅少及雜ノ天然林ニシテ高齢ノモノ多ク速ニ更新スルヲ得策トス	字何外三筆ハ交通不便ニシテ何村里道ニ達スル迄約二里木馬道新設ヲ要ス此經費約1,200圓ノ見込其他ノ國有林ハ何川ニヨリ水材ヲ筏流スレハ約七里ニシテ何港ニ達シ國道ニヨレハ約五里ニテ何停車場ニ達スルヲ以テ至便ナリ							全事業區ヲ人工造林トナスニ於テハ著シク純收入ヲ減スルヲ以テ字何外三筆800町歩ハ現在雜木ノ天然更新ヲナシ其ノ他ニハスギ、ヒノキノ人工植栽ヲ行フ見込ニシテ毎年造林費約1,600圓ヲ要スル見込
2,500 〃 〃				80	15,000	3,000	50	27,500	4,000	
〃				〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃				〃	〃	〃	〃	〃	〃	
本欄ニハ團地毎ニ實測面積ヲ記シ測量未済ノモノニアリテハ見込面積ヲ掲クヘシ	本欄ニハ位置森林帶、氣候、地勢、地味等ノ概要ヲ摘記スヘシ	本欄ニハ現在林ノ主要樹種並概略ノ混合及之カ取扱見込等ヲ掲クヘシ	本欄ニハ四乃至八號ノ事項ニ就キ概要ヲ摘記スヘシ			本欄ニハ毎事業區ニ對スル純收入ヲ記スヘシ				本欄ニハ第九號ノ概要並毎年ノ更新費見込額ヲ記入スヘシ

位、材積ハ尺〆・金額ハ圓位ニ止ムヘシ
業區毎ニ計ヲナスヘシ

第四四號

報年	字	筆三筆五
	大字	何何何
	村	何ク何
	郡	何ク
要急順序	國	何ク

明治何年分	國有林野境界標調査報告												大林區署名
	標種	總標數	亡失毀損數	改設補修濟數	翌年度改設補修見込							備考	
					標數	單價	經費						
	石標												
	木標												
	土塚又ハ石塚												
	標石												
	何々												
	何々												
	何々												
	計												

1	、、	、、	、、	、、
2	、、	、、	、、	、、
3				備考

注意
一　町村ノ境界ニ等ナル林ノ境界ニ有名地物ハ之ヲ記入スヘシ
二　標石ハ其ノ表面ニ何國何郡何村何字何林班何小班何ト刻スヘシ

第四五號　甲

明治何年度	小林區署收入報告								大林區署名
報年	小林區署名	主產物	製材	副產物	其他	計	備考		
	計								

備考
官行斫伐事業ニ依リ製材シタルモノ等ニシテ所轄小林區署ノ收入トナラサルモノアルトキハ其ノ實材價格ヲ合計ノ欄ニ朱書ヲ以テ附記スヘシ

第四五號　乙

明治何年度	小林區署經費報告												大林區署名
報年	小林區署名	俸給及諸給	給及諸費	旅費	雜給及雜費	訴訟及造林費	伐採及造林事業費	林產物作業費	修繕費	處分費	計	備考	
	計												

第四六號

大林區署名　　林(原野)異動增減表

備考	差引在現		減								計		減								計	
	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所

第四七號

森有國　　明治何年度　　年報

小林區	前年度在現		增					
			編入		取得		訂正	
	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積
甲小林區								
乙小林區								
丙小林區								
、、、、、								
、、、、、								
計								

年報

職員調報告

大林區署名

○何大林區署　何市町

山林事務官　何等何級(山林技師何等何級)

署長　位勳爵學位　氏名

何等何級	何課長	位勳爵學位	氏名
山林技師			
何等何級	何課長	何勳爵學位	氏名
林務官			
何等何級	何課長	位勳爵學位	氏名
山林屬			
一（俸給ノ等級ヲ記ス以下同シ）		位勳	氏名
山林技手			
二		位勳	氏名
森林主事			
（月何圓）		位勳	氏名
○何小林區署		何國何郡市町	
林務官	何等何級（山林屬一、、、、山林技手二）		
署長		位勳爵學位	氏名
山林屬			
一		位勳	氏名

山林技手			
二		位勳	氏名
森林主事			
（月何圓）		位勳	氏名

第四八號

年報

明治何年十二月末日現在　職員調報告　大林區署名

階級	官名	等級	人員	俸給年額
奏任官	山林事務官	何等何級		
	ク	ク		
	林務官	ク		
	ク	ク		
	計			
	山林技師	ク		
	ク	ク		
	計			
	合計			

區分	級	人員	俸給年額
判任官 山林監	何級		
判任官 ク	ク		
判任官 計			
判任官 森林主事	百四拾四圓以上		
判任官 森林主事	百四拾四圓未滿		
判任官 計			
判任官 山林技手	何級		
判任官 ク	ク		
判任官 計			
判任官 合計			
雇員 事務雇	拾貳圓以上		
雇員 事務雇	拾貳圓未滿		
雇員 計			
雇員 技術雇	拾貳圓以上		
雇員 技術雇	拾貳圓未滿		
雇員 計			
雇員 合計			
總計			

第四九號

林區署高等官出張報告

大林區署名

年報

官氏名	用件	出張地	日數	旅費	備考
署長、何課長 何課勤務					

備考

一　用件ハ監督、視察、賞實、其ノ他ニ區別シ備考欄ニ其ノ件名ノ內容ヲ詳記スヘシ

二　日數、旅費ハ一人每ニ小計ヲ附シ最後ニ總計ヲ附スヘシ

第五〇號

年報

明治何年度主要材種生產高報告

大林區署名

材種（樹種）	材種（木取り）	數量	備考
杉	丸太		
杉	桷角		
杉	板割		
、、、、、			